

1. 21
352a



始



14₂₄-352e

緒言

當試驗場ハ元糖業改良事務局大島出張所ヲ繼承セルモノ
 ニシテ已ニ十ヶ年ヲ經過セリ此間名稱組織ハ變更セリト
 雖モ圃場ノ位置設備及試驗設計等其儘糖務局ヨリ繼承セ
 ルヲ以テ糖務局開始(明治四十年)以來ノ成績ヲ一括スルモ
 差支ナキモノト信ズ
 從來年々ノ成績ハ之レヲ印刷ニ附シ公表シ來リシト雖
 年々ノ成績一致セザルモノアルガ爲メ當業者ヲ惑ハシ
 ルノ恐アルヲ以テ試驗完結セリト認メタルモノヲ集録シ
 テ「糖業試驗場十年報」ト題シ茲ニ刊行シ以テ當業者ノ參考
 ニ資セントス

大正七年

鹿兒島縣立糖業試驗場長
 鹿兒島縣技師正七位 鳥原重夫 識

大正
 7.5.14
 内交

糖業試驗場十年報

目次

第一、	沿革	一
第二、	試驗場規程	二
第三、	栽培試驗之部	九
一、	種類試驗(甲)	三
二、	採苗試驗	三
三、	季節試驗	六
四、	耕深試驗	六
五、	植方試驗(一)	三〇
六、	植方試驗(二)	三三
七、	深溝植試驗	三四
八、	一株本數試驗	三七
九、	條幅株間試驗(甲)	四〇
十、	覆土試驗(甲)	四〇
十一、	覆土試驗(乙)	四六
十二、	要素比較試驗(甲)	四八

十三、	要素比較試驗(乙).....	五
十四、	要素用量試驗.....	五
十五、	窒素質肥料種類試驗(甲).....	六〇
十六、	窒素質肥料種類試驗(乙).....	六〇
十七、	磷酸質肥料種類試驗.....	六六
十八、	大豆粕分施試驗.....	六九
十九、	綠肥用間作大豆試驗.....	七二
第四、	製糖試驗之部.....	七六
一、	壓搾器ノ大小比較試驗.....	七七
二、	壓搾器原動力ノ比較試驗.....	七九
三、	燃料試驗.....	八一
四、	石灰加用試驗.....	八八
五、	石灰加入期試驗.....	九八
六、	油加用試驗.....	一〇一
七、	取上溫度試驗.....	一〇四
八、	黑糖、赤糖、及白下糖ノ經濟比較試驗.....	一一一
第五、	甘蔗苗圃.....	一一三
一、	苗圃設置規程.....	一一三

二、	苗圃設置箇所.....	一一三
第六、	蔗苗ノ配布.....	一一四
一、	蔗苗配布規程.....	一一四
二、	蔗苗配付成績.....	一一五
第七、	糖業傳習生ノ養成.....	一一六
一、	糖業傳習生養成規程.....	一一六
二、	糖業傳習生養成成績.....	一一〇
第八、	地方短期講習.....	一一二
第九、	農業技手ノ講習.....	一一三
第十、	印刷物配布.....	一一三
第十一、	職員.....	一一四



自明治三十七年
至大正一十一年
拾々年平均氣象一覽

月次	溫度(攝氏)			天氣			日數			暴風日數		
	平均	最高	最低	快晴	晴	曇天	雨	雨量	濕度	強風	烈風	颶風
一月	一四、六	二六、四	四、六	〇、八	一〇、四	一九、八	三三、二	三三、〇	七三、四	一三、〇	二、三	一
二月	一四、二	二五、四	五、二	〇、二	六、四	二一、四	三二、八	三三、五	七三、〇	一三、三	一、六	一
三月	一六、三	二八、〇	五、二	〇、三	九、〇	二一、七	二二、九	二〇、九	七二、〇	一三、〇	一、二	一
四月	一九、四	三〇、三	八、九	〇、七	一〇、五	一八、八	一八、八	二二、〇	七五、四	一三、六	〇、六	一
五月	二一、七	三二、七	一一、六	一、一	一〇、五	一九、四	一九、九	三二、二	七六、八	一三、二	〇、三	一
六月	二五、六	三三、二	一五、八	〇、三	九、八	一九、九	一九、一	三八、七	七九、〇	一三、三	〇、二	一
七月	二七、五	三四、四	一八、八	一、三	一六、六	一三、一	一八、八	三三、三	七八、七	一三、五	〇、一	一
八月	二七、三	三五、〇	二〇、二	一、四	一七、一	一二、五	二〇、五	三二、四	七八、二	一三、六	〇、六	〇、一
九月	二六、一	三五、七	一五、三	二、三	一七、一	一〇、六	一八、九	三二、二	七八、七	一三、四	〇、七	〇、一
十月	二二、八	三二、一	一二、五	一、五	一五、九	一三、六	一七、六	二二、一	七三、八	一三、二	〇、九	〇、一
十一月	一九、一	二九、三	九、一	〇、五	一一、四	一八、一	一六、三	二二、〇	七〇、八	九、三	二、一	〇、一
十二月	一六、〇	二七、一	七、一	〇、八	一一、五	一八、七	一九、八	一八、四	七〇、六	一二、七	二、一	一
全年	二〇、九	三五、〇	四、六	一一、二	一四六、二	二〇七、六	二三五、六	二、九九四、六	七五、〇	八五、一	一二、四	〇、八



糖業試驗場十年報

第一 沿革

本場ハ明治四十五年四月ノ設置ニ係ハルト雖トモ之レガ濫觴ハ去ル明治三十五年三月農商務省ノ補助命令ニ基キ同年七月鹿兒島縣告示第百十六號ニヨリ設立セル大島糖業模範場ニシテ當時ノ大島々司福山宏之レガ管理ノ任ニ當リシモ同三十六年七月島司ノ更迭ニヨリ大島農學校長前野長成兼務ヲ命セラレ之レニ代レリ然ルニ明治四十年三月國庫補助滿期ニヨリ繼續補助廢止ノ結果同年三月鹿兒島縣告示第九十八號ヲ以テ廢廳明治四十年四月農商務省告示第九十號ヲ以テ糖業改良事務局大島出張所ヲ新設セララルヤ鹿兒島縣知事ヨリ從來經營セシ舊大島糖業模範場建物及備品ヲ讓渡シ同年六月十一日ヨリ開廳在沖繩本局ノ事務ヲ分掌シ糖業改良事務局技師伊森賢三所長ヲ命セラレ明治四十四年四月所長伊森賢三鹿兒島縣立農事試驗場技師ニ轉任セルヲ以テ大久保駿熊後任トナル明治四十五年三月二十九日勅令第六十九號官制改革ニヨリ本省ニ隸屬セシ糖業改良事務局及大島東京ノ二出張所モ亦自然廢廳ニ歸セルヲ以テ四月一日鹿兒島縣告示第百六十九號ヲ以テ新タニ大島糖業試驗場ヲ大島郡名瀬村大字金久ニ設置シ元糖業改良事務局大島出張所ニ屬スル建物並ニ器具器械ノ全部ヲ無償交付セラレ補助命令ニ依リ明治四十五年度ヨリ開廳シ本縣技師大久保駿熊場長ヲ命セラレ四月二十三日死去今月二十九日大島々司富田嘉則場長事務取扱ヲ命セラル同年七月十二日鹿兒島縣告示第三百六十一號ヲ以テ鹿兒島縣立糖業試驗場ト改稱同七月二十九日鹿兒島縣立糖業試驗場技師兒玉潤一場長ヲ命セラレ大正五年七月二十六日場長兒玉潤一沖繩縣立糖業試驗場技師ニ轉任セルヲ以テ同年八月一日鹿兒島縣立糖業試驗場技師島原重夫場長ヲ命セラレ施設經營以テ今日ニ至レリ

第二 鹿兒島縣立糖業試驗場規程 (鹿兒島縣訓令 甲第十三號)

- 第一條 鹿兒島縣立糖業試驗場ニ於テ施行スベキ事業ノ概目左ノ如シ
- 一、甘蔗ノ耕種試驗ニ關スル事項
 - 二、砂糖ノ製造ニ關スル事項
 - 三、講習講話ニ關スル事項
 - 四、種苗ノ配布ニ關スル事項
 - 五、調査及質問應答ニ關スル事項
 - 六、報告書ノ發刊ニ關スル事項
- 第二條 糖業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
- 一、場長
 - 一、技師
 - 一、技手
 - 一、書記
- 第三條 場長ハ技師ヲ以テ之レニ充ツ上司ノ指揮監督ヲ承ケ場内一切ノ事務ヲ管理シ場員ヲ監督ス
- 第四條 技師技手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス
- 第五條 書記ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ノ事務ニ従事ス
- 第六條 場長事故アルトキハ上席ノ場員其事務ヲ代理ス

- 第七條 場長ハ場務ニ關シ職名若シクハ場名ヲ以テ文書ヲ發送スルコトヲ得
- 第八條 左ノ各號ニ掲クル事項ハ場長直ニ之レヲ處分スルコトヲ得
- 一、場員管内ノ出張
 - 二、場員ノ事務分擔
 - 三、場員ノ歸省、看護、墓參、轉地療養其他私事旅行、賜暇願ノ許可及除服出仕ヲ命ズルコト
 - 四、種苗及標本類ノ配布
 - 五、豫算ノ範圍内ニ於ケル物品ノ購入
 - 六、講習生ノ募集及養成
 - 七、雇員助手農夫小使ノ進退
 - 八、前各號ノ外輕易ニ屬スル事項
- 第九條 場員管外ノ出張ヲ要スルトキハ知事ノ認可ヲ受クベシ
- 第十條 場長管外ノ出張ヲ要スルトキハ意見ヲ知事ニ具申シ管内出張ノ場合ハ其ノ用務出張地名及豫定日數ヲ具シ豫メ知事ニ届出ツベシ
- 第十一條 場長ハ毎年度始メニ於テ業務ノ設計順序方法及講習生ノ養成方法ヲ定メ島司ヲ經テ知事ノ承認ヲ受クベシ
- 第十二條 場長ハ業務ノ成績ヲ調査シ毎年製糖ノ終期ニ於テ島司ヲ經テ知事ニ報告スベシ
- 前項ノ成績ハ知事ノ認可ヲ得テ公示スルコトヲ得
- 第十三條 場務ノ細則ハ場長之レヲ定メ知事ノ承認ヲ受クベシ

(四十五年六月廿八日訓令甲第二十二條改正)

◎處務細則(明治四十五年六月十九日認可)
大正六年二月十六日改正)

第一事務分掌

- 第一條 場長ハ事務整理ノ爲メ栽培掛、化學分析掛、製糖掛、庶務掛ヲ置ク
- 第二條 栽培掛ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、甘蔗ノ耕種試験ニ關スル事項
 - 二、種苗ノ配布ニ關スル事項
 - 三、昆蟲病理ニ關スル事項
 - 四、栽培ニ關スル講習講話ニ關スル事項
 - 五、栽培ニ關スル成績調査ニ關スル事項
 - 六、栽培ニ關スル調査及質問應答ニ關スル事項
 - 七、氣象觀測ニ關スル事項
 - 八、農夫ノ配置監督ニ關スル事項
 - 九、苗圃ニ關スル事項
- 第三條 化學分析掛ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、砂糖、土壤、肥料其他糖業ニ關スル物件ノ分析鑑定ニ關スル事項
 - 二、化學ニ關スル試験

- 三、肥料土壤ニ關スル講習講話ニ關スル事項
 - 四、肥料土壤其他化學ニ關スル調査及質問應答ニ關スル事項
 - 五、化學試験ニ關スル成績調査ニ關スル事項
- 第四條 製糖掛ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、砂糖ノ製造試験ニ關スル事項
 - 二、製糖ニ關スル講習講話ニ關スル事項
 - 三、製糖ニ關スル調査及質問應答ニ關スル事項
 - 四、製糖ニ關スル成績調査ニ關スル事項
 - 五、標本陳列整理保管ニ關スル事項
- 第五條 庶務掛ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、場長ノ官印及場印ノ保管ニ關スル事項
 - 二、文書ノ收受發送及編纂保存ニ關スル事項
 - 三、經費ノ收支豫算決算ニ關スル事項
 - 四、土地建物其他物品會計ニ關スル事項
 - 五、出勤簿ノ管理及場員ノ願届ニ關スル事項
 - 六、報告書ノ發刊配布ニ關スル事項
 - 七、小使ノ監督ニ關スル事項
 - 八、參觀人ノ案内ニ關スル事項

九、場内一般ノ取締ニ關スル事項

十、宿直ニ關スル事項

十一、他掛ノ主管ニ屬セサル事項

第六條 各掛ニ主任ヲ置キ場長ノ指揮監督ヲ受ケ主管事務ヲ掌理ス

第七條 事務ハ總テ主任ニ於テ之レヲ分擔ス事ノ關係アルモノハ相互ニ合議スベシ

第八條 主管事務ニ付合議ヲ受ケタル各掛員ハ事ノ輕重ニ從ヒ何レモ分任ノ責アルモノトス

第九條 主任事故アルトキハ其掛ノ次席者事務ヲ代理ス

第二 事務ノ處理

第十條 各掛主任ハ毎年度ノ初メニ於テ施行スベキ業務ノ設計並ニ豫算案ヲ作り掛員ト協議編成シ場長ニ提出スベシ

第十一條 場長ハ前項ノ書類ヲ査閱シ規程第十二條ノ手續ヲ了スルモノトス

第十二條 業務設計ニヨリ圍場日誌ヲ作り日々ノ作業功程及期日ヲ豫定シ得ヘキ事項ヲ記スベシ

第十三條 各主任ハ掛員ト事務分擔ヲ定メ場長ノ承認ヲ受クベシ

第十四條 前項ノ分擔者ハ日誌及業務豫定簿ヲ作り日誌ハ前日分ヲ業務豫定ハ翌日ノ事業及之レニ要スル人夫ヲ記載シ主任捺印場長ニ經伺スベシ

但シ休日ノ翌日ニ屬スル事業豫定ハ休日ノ前日ニ前項ノ手續ヲナスベシ

第十五條 掛員ヨリスル文書發案等其他荷モ所屬事務ニ關スルモノハ總テ主任ヲ經由スベシ

第十六條 回覽ヲ要スル文書ハ回覽印ヲ押捺シ回覽ニ供スベシ

第十七條 收受文書中至急ヲ要スル者ハ其文書ニ至急印ヲ押捺シテ配布スベシ

第十八條 總テ事件ノ處理ハ原議用紙ニ其處分案ヲ記載シ第七條ニヨリ場長ニ提出シ決裁ヲ請フベシ

第十九條 前條ニヨリ合議ヲ受ケタルトキハ調査ノ爲メ特ニ時日ヲ要スルモノヲ除クノ外遅クモ當日中ニ開了回覽スルヲ要ス

第十二條 同一事件ニ關スル處分案ハ其關係書類ヲ順次添付シ顛末ヲ知り易カラシムベシ

第二十一條 場長不在中代理者ニ於テ決裁スル文書ニシテ場長ノ親閱ヲ要スルト認ムルモノハ代理者ニ於テ其文書ニ要親閱ト朱書スベシ

第三 文書授受發送及編纂

第二十二條 總テ官衙公署又人民ニ往復文書ハ場長名若クハ場名ヲ用ヒ特ニ主任者ヨリ文書ノ往復ヲ要スルモノアルトキハ場長ノ認諾ヲ得テ後發送スベシ

第二十三條 本場ニ到着スル文書ハ庶務掛ニ於テ之レヲ收受シ親展書ヲ除クノ外直ニ之レヲ開封シ受附簿ニ登錄シ

文書ニ番號及收受月日ヲ記載捺印ノ上場長ノ認印ヲ經テ主任ニ配布スベシ

第二十四條 發送文書ハ發送簿ニ登記シ文書ニ番號ヲ記シ即日之レヲ發送スベシ但シ文書輻輳シテ即日其發送ヲ了ル能ハサルトキハ緩急ヲ計リ場長ノ認許ヲ得テ翌日迄留置スルコトヲ得

第二十五條 前條原議書ニ發送月日ヲ記入シ取扱主任捺印ノ上原議者ニ返付スベシ

第二十六條 發送文書ハ親展又ハ書留郵便等特別ノ取扱ヲ要スルモノハ原議書ニ於テ原議者欄外ニ其旨朱記スベシ

第二十七條 處分ノ完結シタル文書ハ直ニ完結月日ヲ欄外ニ朱記シ捺印ノ上庶務掛ニ回付スベシ
第二十八條 文書ハ完結ノ都度左ノ類別ニヨリ之レヲ纏綴シ普通文書ハ曆年ニヨリ會計書類ハ會計年度ニヨリ編纂保存スベシ

第一類 永久保存

本縣令達訓示例規其他重要文書

第二類 拾年保存

法規ニヨリ處分シタルモノ及諸報告調查書類等事業上参照タルベキモノ

第三類 一年保存

一時ノ處辨ニ屬シ將來必要ナキモノ

第二十九條 保存期限ヲ經過シタル文書ハ場長ノ決裁ヲ經テ棄却ノ手續ヲ爲スベシ

第三十條 一ケ年ノ文書ニシテ僅少ナルモノハ翌年度ヲ通シテ連續編纂スルモ妨ケナシ此場合ニハ表紙ニ何ケ年連續ト朱記シ保存年限ヲ知ルニ便ナラシムベシ

第四 物品會計

第三十一條 場用全般ノ物品ヲ保存整理ノ爲メ左ノ如ク區別シ各主任者ヲ定ム

一、農具及昆蟲病理ニ關スル器具

一、製糖及分析用器具機械

一、生産製造調製及原料品ノ保存並ニ陳列用物品

一、事務用物品

第三十二條 物品保存ハ各主任者其責ニ任ス

第三十三條 物品保管主任者ハ毎年三回(四月、八月、十二月)ニ物品ヲ點檢シ亡失毀損其他ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ其品名數量事由ヲ詳記シ庶務掛ニ差出スベシ

第三十四條 庶務掛ハ場長ノ指揮ニ從ヒ時宜ヲ見計ヒ是レガ處分ノ手續ヲナスモノトス

第三十五條 器具機械及圖書ヲ借用セントスルトキハ貸渡簿ニ記名調印ノ上借用ノ手續ヲナスベシ

第三十六條 物品其他消耗品ハ主任ノ承認ヲ經スシテ猥リニ使用スベカラズ

第三十七條 物品購入及臨時農夫ノ傭入ヲ要スルトキハ毎月ノ初メニ於テ其月中所要ノ員數ヲ取調庶務掛ヘ請求ノ通知ヲナスベシ

第三十八條 庶務掛ハ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其緩急必要ノ度ヲ調査シ場長ノ承認ヲ經テ之レカ注文雇入ノ手續ヲナスベシ

第五 雜 則

第三十九條 本則ニ規定ナキモノハ本縣處務細則ヲ準用ス

第三 栽培試驗之部

耕種梗概

特種ノ取扱ヲ要スル試驗ヲ除キ一般ニ左記ノ耕種法ニ依ル

- (一) 整地
前作物(甘藷)跡地ヲ深サ一尺以上ニ耕起シ土壤ヲ風化セシメテ後更ニ一回耕起シ土壤ヲ粉碎シ地面ヲ均平ナラシメ所要ノ距離ヲ取リテ深サ寸六内外ノ植溝ヲ作り其溝底ヲ一回耕セリ
- (二) 品種
特種ノ試験ヲ除キ總テ讀谷山種ヲ用キタリ
- (三) 採苗
苗ハ肥大ニシテ健全ナル蔗莖ノ梢頭部ヲ用ユ其長サ六、七寸トシ三、四芽ヲ込メテ切斷シ植付前一二晝夜浸水シ挿植ニ供シタリ出穂莖ハ使用セズ
- (四) 條幅株間
條幅三尺トシ株間ヲ一尺五寸トス(反當貳千四百本)而シテ地形、風位ノ許ス限リ南北畦トナセリ
- (五) 挿苗法
植溝中ニ堆肥等元肥ヲ施シ土ヲ覆ヒ其處ニ苗一本ヲ地面ニ稍々斜ニ畦ト並行シテ挿付ク而シテ挿苗ニ際シテハ苗ハ剝葉シ芽子ハ常ニ左右兩側ニ位セシメ覆土ハ僅カニ頭部ヲ覆フニ止メタリ
- (六) 挿苗期
特種ノ試験ヲ除キ二三月ノ候ニ終了セリ
- (七) 肥料
肥料ノ種類及其用量左ノ如シ
- (甲) 一般試験ニ用キシ標準肥料 (現在使用ノモノト同ジ)

肥料名	反當用量	元肥	第一追肥	第二追肥	第三追肥	窒素	磷酸	加里	價格
堆肥	600	600	100	100	100	1100	1100	1000	3000
骨粉	60	60	100	100	100	0110	0110	0110	1200
人糞	100	100	100	100	100	0110	0110	0110	0200
硫酸安母尼亞	100	100	100	100	100	0110	0110	0110	1000
大豆粕	10	10	10	10	10	0100	0100	0110	1100
過磷酸石灰	10	10	10	10	10	0100	0100	0110	0200
計						1100	1100	1000	1100

(乙) 季節試験ニ用キシ肥料

肥料名	反當用量	元肥	第一追肥	第二追肥	第三追肥	窒素	磷酸	加里	價格
堆肥	600	600	100	100	100	1100	1100	1000	3000
骨粉	60	60	100	100	100	0110	0110	0110	1200
人糞	100	100	100	100	100	0110	0110	0110	0200
硫酸安母尼亞	100	100	100	100	100	0110	0110	0110	1000
大豆粕	10	10	10	10	10	0100	0100	0110	1100
過磷酸石灰	10	10	10	10	10	0100	0100	0110	0200
計						1100	1100	1000	1100

(丙) 苗圃及區外作ニ用キシ肥料

堆肥	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤
骨粉	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤
人糞	100斤	100斤	100斤	100斤	100斤	100斤	100斤	100斤	100斤
大豆粕	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤
過磷酸石灰	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤	200斤
計	1,000斤	1,000斤	1,000斤	1,000斤	1,000斤	1,000斤	1,000斤	1,000斤	1,000斤

(八) 施肥ノ方法

新植蔗ニハ第一回ニ元肥トシテ堆肥、骨粉、大豆、粕過磷酸石灰(乙號ニテハ過磷酸石灰大豆粕ヲ缺ク)ヲ植溝中ニ施シ淺ク覆土シテ挿苗セリ第二回ニハ植付後一ヶ月ヲ經テ甘蔗ノ發生セシ株ニ添フテ淺キ溝ヲ設ケ第一追肥トシテ人糞尿ヲ同容積以上ノ水ニテ稀釋シテ施シ覆土シ第三回ハ第一追肥后一ヶ月ヲ經テ其反對ノ側ニ溝ヲ設ケ第二追肥トシテ大豆粕ト過磷酸石灰ヲ施シ(乙號ニテハ硫酸安母尼亞四貫ヲ水六石ニ解キテ施ス)第四回ハ第二追肥后一ヶ月ヲ經テ第三回ト反對ノ側ニ溝ヲ設ケ人糞尿ヲ施シ覆土セリ

又株出蔗ニハ收穫后刈株ヲ整理シ速カニ第一回中耕ヲナシ其畦間ニ淺キ溝ヲ設ケ第一回ノ肥料ヲ施シ覆土シ其後一ヶ月毎ニ施肥セリ其方法新植蔗ニ於ケルト同ジ

(九) 補植
發芽揃后圃場ヲ檢シ缺損株ニ對シテ補植ヲ行ヘリ

(十) 中耕及除草
中耕ハ追肥ノ前後土地ノ凝固ヲ見計ヒテ三回行ヒタリ
除草ハ普通中耕ト兼ネテ行ヒ三回乃至四回行ヒタリ

(二) 培土

第三回追肥ノ頃ヨリ行ヒ其後成長ノ程度ニ依リ二回位行ヒタリ

(三) 剥皮

剥皮セズ一回下部ノ枯葉ヲ集ムルニ止メタリ

(三) 除藥

除草枯葉除去ハ共ニ一二回行ヒタリ

(四) 結立

九月中旬第一回結立ヲ行ヒ其後風害ノ爲メ倒伏セルモノヲ引起シ結束シ又莖ノ伸長宜シキモノハ三、四株宛集メテ第二回結立ヲ行ヒタリ

(五) 病蟲害驅除

病蟲害發生ノ徵候アル時ハ直ニ驅除セリ

(六) 收穫期

特種ノ試験ヲ除キ二三月ノ候ニ終了セリ

(一) 目的

一、種類試験(甲)
本試験ノ目的ハ各地産多數ノ甘蔗ヲ取寄セ收量、製糖量、品質其他ヲ比較研究シ大島ノ風土ニ適スベキ甘蔗ヲ發見セントスルニアリ

本試験ハ明治四十一年度ノ創始ニシテ大正五年度迄繼續實行セリ

(二) 種類名及原産地
種類名及蔗苗取寄先左ノ如シ

區名	種類名	原産地
一	ルイジャナ、ストライブド	ルイジャナ
二	ストライブド、シングポール	布哇
三	ローズバンブー	布哇
四	鳥蔗	瓜哇
五	讀谷山	沖繩縣
六	喜界島	鹿兒島縣
七	大島在來	全上
八	花蔗	瓜哇
九	濠洲ストライブド	濠洲
十	エローカレドニア	布哇
十一	デメララー一七	デメララー
十二	チエリボン	瓜哇
十三	埃及白蔗	埃及
十四	廣東	小笠原
十五	瓜哇實生一六一	瓜哇

(三) 累年成績
今累年ノ成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	種類名	反當	四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	大正元年度	二年度	三年度	四年度	五年度
一	ルイジャナ	砂糖量	五、一〇〇	五、七三〇	二、七六〇	二、七〇六	五、六二一	〇、七七六	二、一五〇	五、六七〇	七、五四五
二	ストライブド	砂糖量	四、〇〇〇	四、二〇〇	二、七〇〇	一、八一	四、〇〇五	〇、〇〇〇	二、一五六	五、七〇〇	七、四八三
三	ローズバンブー	砂糖量	四、七一一	三、四四〇	三、三九五	三、三九五	三、三九五	一、四二二	二、二〇〇	三、三九五	六、九一四
四	讀谷山	砂糖量	五、一一五	九、二四五	六、二九〇	五、七三六	五、九二五	五、九二五	三、二八	九、二六〇	七、二六六
五	喜界島	砂糖量	五、〇五〇	八、四六〇	一、〇五一	四、九八八	四、六五九	五、〇六一	二、九三三	八、一一〇	八、三六一
六	大島在來	砂糖量	五、二六〇	八、九〇〇	八、三〇〇	四、五三〇	五、〇六八	八、二二〇	二、九〇〇	六、〇〇〇	七、四八一
七	ストライブド	砂糖量	五、八七五	七、五五〇	四、二九〇	四、五三〇	四、九八七	二、五八〇	二、九〇〇	六、〇〇〇	七、二七一
八	シングポール	砂糖量	三、七八〇	二、五四〇	三、九二〇	四、三三〇	三、九二〇	二、四九	二、三三	一、〇、九四〇	七、二七一
九	鳥蔗	砂糖量	二、〇〇〇	三、八五〇	三、六五	三、六五	三、六五	二、八八	二、八八	一、〇、九四〇	七、二七一
十	濠洲	砂糖量	三、三〇〇	三、五〇〇	二、六〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	二、六六三	三、〇〇五	七、四六〇	八、九二二
十一	埃及白蔗	砂糖量	一、〇〇〇	三、八五〇	三、八五	三、八五	三、八五	三、八二四	三、〇〇五	七、四六〇	八、九二二
十二	エローカレドニア	砂糖量	一、〇〇〇	三、八五〇	三、八五	三、八五	三、八五	三、八一〇	三、〇〇五	七、四六〇	八、九二二
十三	デメララー	砂糖量	一、〇〇〇	三、八五〇	三、八五	三、八五	三、八五	二、六六三	三、〇〇五	七、四六〇	八、九二二

特 性 (其二)

番 号	品 種 名	調 査 事 項	甘 蔗				搾 汁			
			水分	灰分	纖維	蔗糖	ブリスツ	蔗糖	葡萄糖	純度
一	大 島 在 來 (八ヶ年平均)	自明治四十一年度 至大正五年度 (四十四年度ハ缺)	七二、六四九	〇、六五七	一三、六〇九	一、八三六	一六、三三八	一三、六六〇	〇、八二二	
二	讀 谷 山 (八ヶ年平均)	全	七二、〇六六	〇、五三八	一三、五〇八	一、二五六	一七、三三九	一五、一一八	〇、七〇〇	
三	喜 界 島 (八ヶ年平均)	全	七二、七〇九	〇、五九九	一三、〇二二	一、九四〇	一七、四〇〇	一四、七一一	〇、六八八	
四	廣 東 (八ヶ年平均)	全	七二、一八一	〇、三九九	一三、五五一	一、四六五	一八、六六三	一六、三二八	〇、四七七	
五	ルイヂヤナ ストライブド (八ヶ年平均)	全	七五、四二二	〇、三二四	一五、五〇九	一、〇九一	一六、八七	一四、六四六	〇、六六六	
六	ローズバンブー (八ヶ年平均)	全	七三、二五五	〇、三七八	一五、六三二	一、五七九	一六、六〇	一四、一二六	〇、七七七	
七	ストライブト シンガポール (三ヶ年平均)	自明治四十一年度 至全四十三年度	七三、三二二	〇、四七八	一四、八七一	一、九六〇	一六、九二	一三、六九八	〇、九〇一	
八	鳥 蔗 (三ヶ年平均)	全	七三、二八八	〇、三七〇	一四、六五二	一、二〇八	一八、〇一	一五、九〇四	〇、八八、五六	

番 号	品 種 名	調 査 事 項	水分	灰分	纖維	蔗糖	ブリスツ	蔗糖	葡萄糖	純度
六	ローズバンブー (九ヶ年平均)	全	七二、〇〇一	〇、七七〇	一三、九四八	一、八〇三	一七、二八七	一五、七九一	〇、七七一	八、二二九
七	ストライブト シンガポール (三ヶ年平均)	自明治四十一年度 至全四十三年度	七三、三二二	〇、四七八	一四、八七一	一、九六〇	一六、九二	一三、六九八	〇、九〇一	八、二二九
八	鳥 蔗 (三ヶ年平均)	全	七三、二八八	〇、三七〇	一四、六五二	一、二〇八	一八、〇一	一五、九〇四	〇、八八、五六	八、二二九
九	濠洲ストライブ ト(二ヶ年平均)	自明治四十一年度 至全四十二年度	一、八〇〇	二、七四	三、三〇八	二、五三	一、〇〇	一、三二	二、四七	七、四二〇
十	花 蔗 (二ヶ年平均)	全	一、八〇〇	二、七四	三、三〇八	二、五三	一、〇〇	一、三二	二、四七	七、四二〇
一	エローカレドニ ヤ(六ヶ年平均)	自明治四十四年度 至大正五年度	二、四〇〇	二、一四八	二、三三	一、八七八	三、〇三	二、三五	二、七二	二、九〇一
二	D 一七 號 (六ヶ年平均)	全	二、四〇〇	二、一四八	二、三三	一、八七八	三、〇三	二、三五	二、七二	二、九〇一
三	チ エリ ボン (六ヶ年平均)	全	二、四〇〇	二、一四八	二、三三	一、八七八	三、〇三	二、三五	二、七二	二、九〇一
四	埃 及 白 蔗 (三ヶ年平均)	自明治四十四年度 至大正一一年度	二、四〇〇	二、一四八	二、三三	一、八七八	三、〇三	二、三五	二、七二	二、九〇一
五	瓜哇一六一號 (三ヶ年平均)	自大正三年度 至全五年度	二、四〇〇	二、一四八	二、三三	一、八七八	三、〇三	二、三五	二、七二	二、九〇一

(備考)表中莖周ハ明治四十四年度以前ノ成績ヲ平均シ莖徑ハ大正元年度以降ノ試験成績ヲ平均セシモノナリ

年次	砂糖收量			備考				
	第一位	第二位	第三位					
九	澤洲 ストライプト (二ケ年平均)	自明治四十一年度 至全四十二年度	七二、三六七	〇、一三三、八四七	一八、〇〇八	一五、九六六	〇、六二	八八、四七
十	花 (二ケ年平均)	全	七一、六二五	〇、三七九、二七	一八、二八	一五、七四五	〇、九一	八六、二〇
十一	エローカレドニヤ (五ケ年平均)	自大正元年度 至全五年度	七七、九〇〇	〇、一〇〇、一〇	一六、二九	一三、〇七〇	〇、九一	七九、六〇
十二	D (一七ケ年平均)	全	七六、一〇〇	〇、一〇〇、一〇	一六、二九	一三、〇七〇	〇、九一	八〇、八〇
十三	チエリボン (五ケ年平均)	全	七七、二〇〇	〇、一〇〇、一〇	一六、二九	一三、〇七〇	〇、九一	八〇、八〇
十四	埃及白蔗 (二ケ年平均)	自大正元年度 至全二一年度	七七、五〇〇	〇、三〇〇、一〇	一八、〇〇	一五、五七〇	〇、六二	八六、五〇
十五	瓜哇 (三ケ年平均)	自大正三年度 至全五年度	一	〇、一〇〇、一〇	一七、〇九	一四、九〇〇	〇、六二	八六、七〇

(備考) 表中水分及灰分ハ大正元年度以前ノ成績ヲ平均シ搾汁欄中葡萄糖ハ大正元年度以降ノ試験成績ヲ平均シタ
 (六) 結論
 ルモノナリ
 明治四十一年度ヨリ大正五年度ニ至ル九ケ年間ノ試験ニ依リ年々ノ成績ヲ考フルニ

區別	砂糖收量			備考
	第一位	第二位	第三位	
明治四十一年度	讀 谷 山	喜 界 島	大 島 在 來	此年大島在來種ヲ試験ニ加ヘズ
全 四十二年度	讀 谷 山	喜 界 島	大 島 在 來	
全 四十三年度	喜 界 島	大 島 在 來	讀 谷 山	
全 四十四年度	D 一 七	讀 谷 山	喜 界 島	
大正元年度	大 島 在 來	讀 谷 山	喜 界 島	
全 二年度	大 島 在 來	讀 谷 山	喜 界 島	以上ノ成績ヨリ考フル時ハ九ケ年間ヲ通ジテ良好ナルハ讀谷山、大島在來ニシテ喜界島之レニ次グ近年ニ至リ大正三年度及大正五年度ニ於テハ却テ瓜哇實生種及デメラ種ノ優良ナル成績ヲ擧グツ、アルヲ見ル 右ハ年々ノ成績ナルガ次ニ之等ノ平均成績ニ付キテ見ルニ
全 三年度	J 一 六	D 一 七	喜 界 島	
全 四年度	讀 谷 山	大 島 在 來	D 喜 界 島	
全 五年度	エローカレドニヤ	J 一 六	D 喜 界 島	
九ケ年平均	讀 谷 山	喜 界 島	大 島 在 來	
八ケ年平均	大 島 在 來	讀 谷 山	喜 界 島	大島在來ヲ加入セズ
三ケ年平均	喜 界 島	讀 谷 山	大 島 在 來	
(四一四三)	讀 谷 山	喜 界 島	大 島 在 來	
最近六ケ年平均	讀 谷 山	喜 界 島	大 島 在 來	大島在來ヲ加入セズ
最近五ケ年平均	大 島 在 來	讀 谷 山	喜 界 島	
最近三ケ年平均	J 一 六	大 島 在 來	讀 谷 山	

右ノ平均成績ヨリ案ズルニ四十三年以前ニアリテハ大島在來種ハ讀谷山種喜界島種ニ及バザリシト雖モ最近ノ成績ヲモ加入スル時ハ大島在來種讀谷山種喜界島種ノ順位トナルヲ見ル、此成績ハ砂糖收量ヨリ論ズルモノナルガ若シ砂糖品質ヲ調査スル時ニ於テハ大島在來ハ讀谷山及喜界島ニ比シテ遙カニ劣等ナルヲ見ル尙又氣候順調ニシテ豊作ト稱スベキ天候ニ於テハ讀谷山種ノ成育最モ良好ニシテ「歩留」ニ於テモ砂糖品質ニ於テモ讀谷山種ヲ第一トナス之レ讀谷山種ヲ獎勵品種トスル所以ニシテ今後尙一層優良ナル品種ノ發見セラル迄ハ讀谷山種ヲ栽培スルヲ宜シトス右ノ三種ヲ除キ其他ノ品種中有望ナルモノ皆無ナリ「D一七」ハ時々良好ナル成績ヲ擧グルト雖固定セルモノニ非ズ殊ニ大莖ニシテ大島ノ糖業ニハ絶對ニ不合理ナリ

只茲ニ注意スベキハ瓜哇實生種ニシテ此中本縣ニ適スルモノニ三種アルガ如シ「J一六一號」モ有望ナルモノノ一ニシテ大正三年始メテ栽培セル以來常ニ良好ナル成績ヲ示シ大正三年度、大正五年度ニ於テモ他ノ三種ヲ凌駕シ平均成績ニ於テモ第一位ヲ占メタリ、之レガ形質ヲ調査スルニ他ノ外國種ト異ナリ能ク本縣ノ糖業ニ適スル條件ヲ具備シ將來望アルガ如シ、未ダ三ヶ年ノミノ成績ナルヲ以テ茲ニ斷定スル事能ハズ、今後試験ヲ繼續施行シ嚴密ナル研究ヲ行ハントス

△要之「現今ニ於テ優良ナリト認ムルハ讀谷山種ニシテ喜界島種大島在來種之レニ次グリ」

(附記)新種育成ニ依ル實生品種ノ優劣ニ就キテハ大正五年度以來研究中ニ付後日改メテ發表セントス

二、採苗試驗

(一) 目的
本試驗ハ明治四十一年度ヨリ大正四年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ苗用トシテ甘蔗莖ノ大小及其上中下部何レヲ採ルヘキヤ又結果ニ於テ其間何程ノ相違ヲ來スヤヲ見ントスニアリ

(二) 設計

試驗設計左ノ如シ	區名	試驗別	試驗	別
	一 二 三 四 五 六	小莖上部 小莖中部 小莖下部 大莖上部 大莖中部 大莖下部	小 小 小 大 大 大	莖 莖 莖 莖 莖 莖 部 部 部

(三) 累年成績

累年成績ヲ擧グレバ左ノ如シ	區名	試驗別	反當量	四十一年度	四十四年度	大正元年度	二年度	三年度	四年度
	一	小莖上部	砂糖量	四、三三〇	八、六〇〇	四、〇〇一	六、七二七	五、二七三	四、七二二
	二	小莖中部	砂糖量	四、三三〇	七、六五〇	三、九一〇	六、三六二	四、四九〇	四、六四四
	三	小莖下部	砂糖量	五、九一〇	四、七五〇	四、一〇九	六、三〇〇	四、四四〇	四、九七
	四	大莖上部	砂糖量	五、七三〇	一、七三〇	三、七一七	三、八六七	三、二四八	四、一一二
	五	大莖中部	砂糖量	六、一五〇	七、八〇五	三、九一四	七、五五二	三、〇〇九	四、一一二
	六	大莖下部	砂糖量	三、七六〇	七、八〇五	四、七九七	六、八七	四、五八〇	五、二一一
				四、一六五	四、七五五	四、七五五	七、八〇二	四、七二五	五、三三三
				四、九三〇	四、四八七	四、六〇七	五、八〇〇	三、〇九八	四、九四四
				六、一五	三、九	四、七五	五、五二	二、九一	五、三三

(四) 平均成績
以上累年成績ニ基キ六ヶ年ノ平均成績ヲ擧クレバ左ノ如シ

區名	試驗別	收反	六ヶ年平均	位次
一	小 莖 上 部	砂莖	五、六一〇	一
二	小 莖 中 部	砂莖	五、〇七九	二
三	小 莖 下 部	砂莖	三、六七六	三
四	大 莖 上 部	砂莖	五、六五八	一
五	大 莖 中 部	砂莖	五、三七二	二
六	大 莖 下 部	砂莖	四、七七四	三

(五) 結 論

明治四十一年度ヨリ大正四年度ニ至ル累年ノ成績ニ依リ其ノ順位ヲ見ルニ先ヅ大莖ト小莖トニ分チテ考ヘントス
(イ) 大 莖 ノ 部

年 次	第 一 砂	第 二 糖	第 三 收	第 三 量
明治四十一年度	大 莖 上 部	大 莖 中 部	大 莖 上 部	大 莖 上 部
全 四 十 四 年 度	大 莖 上 部	大 莖 中 部	大 莖 上 部	大 莖 下 部

右ノ如ク年々區々ニシテ一致セズト雖第一位ニ列スルモノヲ調ブル時ニ於テ上部ノ苗ヲ最モ良好トシ中部ノ苗之レニ次グヲ見ル、第二位ノ例ニ於テハ上部中部之レヲ占メ下部苗ハ大方第三位ニ落ツルヲ見ルベシ次ニ小莖ノ部ヲ考フルニ
(ロ) 小 莖 ノ 部

年 次	第 一 砂	第 二 糖	第 三 收	第 三 量
明治四十一年度	小 莖 下 部	小 莖 中 部	小 莖 上 部	小 莖 上 部
全 四 十 四 年 度	小 莖 上 部	小 莖 中 部	小 莖 上 部	小 莖 下 部

右ノ成績ヲ見ルモ上部苗ノ成績最モ良好ニシテ中部苗之レニ次ギ下部苗最モ劣レリ
次ニ創始以來ノ平均成績ヲ見ルニ大莖小莖共ニ上部苗ヲ最良トシ次テ中部苗下部苗ノ順位トナリ前掲ノ累年成績ト大体ニ於テ一致セリ
△要之『苗トシテ蔗莖ヲ用ユル場合ニハ必ず上部苗ヲ用ユベク成績最モ良好ナリ、中部苗ハ止ムヲ得ザル場合ノ外

決シテ用ユベカラズ
 上部苗中最モ良好ナル部分ハ梢頭部ニシテ之レヲ梢部^{〇〇}苗ト稱シ次イテ其下ヲ二段苗三段苗ト稱ス三段苗ハ不良ナリ

三、季節試験

(一) 目的

本試験ハ明治四十一年度ヨリ大正五年度ニ至ルマデ繼續施行セルモノニシテ其目的ハ大島郡ニ於テ普通栽植期トセル三月ヨリ五月ニ至ル間ノ外ニ適當有利ナル時季ナキヤヲ見ントスルニアリ

(二) 設計左ノ如シ

區名	試驗別
一	十一月植
二	十二月植
三	一月植
四	二月植
五	三月植
六	四月植
七	五月植
八	六月植

(三) 累年成績

累年成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當量	四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	大正元年度	二年度	三年度	四年度	五年度
一	十月植	砂莖糖量									
二	十一月植	砂莖糖量									
三	十二月植	砂莖糖量									
四	一月植	砂莖糖量									
五	二月植	砂莖糖量									
六	三月植	砂莖糖量									
七	四月植	砂莖糖量									
八	五月植	砂莖糖量									

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ四十四年度ヨリ大正五年度ニ至ル六ケ年間ノ平均成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當量	位次
一	十二月植	四、八一五	二
二	一月植	四、四七三	四

六	五	四	三
五	四	三	二
月	月	月	月
植	植	植	植
砂莖	砂莖	砂莖	砂莖
糖量	糖量	糖量	糖量
四、九七二	四、二六七	四、四一五	三、五三八
一	五	三	六

(五) 結論

右ノ如ク明治四十四年以降大正五年度迄六ケ年ノ平均成績ヲ見ルニ二月植最モ優良ニシテ他ハ皆之レニ劣レリ
 △要之「挿苗ノ時期ハ二月ヲ最モ宜シトシ仕事ノ都合上前後スルトモ餘リ遅速ナキ事ヲ要ス」

四、耕深試験

(一) 目的

本試験ハ明治四十一年ヨリ大正五年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ甘蔗ノ栽培ニ際シ耕起ノ深サヲ何程迄進ム
 レバ最モ利益アルヤヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

試験設計左ノ如シ

區名	試驗別
一	五寸耕起
二	一尺五寸耕起
三	一尺五寸耕起
四	二尺耕起

(三) 累年成績	區名	試驗別	反當量	四十一年度	四十二年度	四十三年度	大正二年度	三年度	四年度	五年度
	一	五寸耕起	砂莖糖量	六、四六〇	一、八〇〇	六、二七八	五、一七三	五、四八五	七、六四〇	五、二〇三
(四) 平均成績	二	一尺五寸耕起	砂莖糖量	四、九三〇	二、九三〇	六、六八二	五、八八〇	五、二八五	七、五九〇	四、八六三
	三	一尺五寸耕起	砂莖糖量	四、九三〇	二、九三〇	六、六八二	五、八八〇	五、二八五	七、五九〇	四、八六三
(五) 結論	四	二尺耕起	砂莖糖量	六、六九〇	一、九九〇	六、九六二	六、八六三	四、八六〇	六、七〇〇	四、五六〇
	一	五寸耕起	砂莖糖量	六、四六〇	一、八〇〇	六、二七八	五、一七三	五、四八五	七、六四〇	五、二〇三
區名		試驗別	反當量	七ケ年平均	位次					
		一	五寸耕起	五、四三六	四					
		二	一尺五寸耕起	五、四二七	三					
		三	一尺五寸耕起	五、五〇九	一					
		四	二尺耕起	五、五〇八	二					

累年成績ニ依リ七ケ年ノ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

明治四十一年以降累年ノ成績ニ依リ其順位ヲ考フルニ

年次	砂糖收量		
	第一位	第二位	第三位
明治四十一年度	二尺耕起	五寸耕起	一尺耕起
全四十二年度	一尺耕起	一尺五寸耕起	二尺耕起
全四十三年度	二尺耕起	一尺耕起	五寸耕起
全四十四年度	一尺五寸耕起	一尺五寸耕起	一尺五寸耕起
大正元年度	一尺五寸耕起	一尺五寸耕起	一尺五寸耕起
全二年度	一尺五寸耕起	二尺耕起	一尺五寸耕起
全三年度	一尺五寸耕起	五寸耕起	二尺五寸耕起
全四年度	一尺五寸耕起	一尺五寸耕起	二尺五寸耕起
全五年度	五寸耕起	一尺五寸耕起	二尺五寸耕起

右ノ成績ヨリ案スルニ一尺五寸及二尺耕起ガ最も多ク第一位ヲ占メタリ

又右七ケ年ノ平均成績ヲ見レモ一尺五寸ニ耕起セルモノ、最も良好ニシテ二尺耕起ノモノ之レニ次ギ他ハ遙カニ劣レ

△要之「蔗作地ノ整地ニ際シテ先ツ土地ヲ一尺五寸以上ニ耕起シ能ク碎破シ風化セシムルヲ要ス甘蔗ノ如キ形体大ナル作物ハ他作物ノ如キ淺耕ニテハ完全ナル生育ヲ遂グルヲ得ズシテ充分ナル收量ヲ舉グル事能ハザルナリ故ニ蔗作ノ根本ノ作業トシテ耕地ハ成ル可ク深ク少クモ一尺五寸内外ニハ打チ起スヲ要ス」

五、植方試験 (一)

(一) 目的

本試験ハ明治四十一年度ヨリ大正四年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ切苗トシテ二本宛植ウルト全莖ヲ其儘植ユルトハ普通ニ採用スル處ノ一本宛植ユルモノト何程ノ相違アルヤヲ見ントスルニアリ

區名	試驗別
一	二本植
二	全莖植
三	普通植

(三) 累年成績

累年成績ヲ舉クレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當量	四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	大正元年度	二年度	三年度	四年度
一	二本植	砂糖量	五、四一〇斤	八、一〇五斤	七、七二七斤	四、八四一斤	四、七九五斤	六、〇三九斤	四、二四九斤	八、四九〇斤
二	全莖植	砂糖量	五、五三〇斤	九、九二〇斤	七、七二七斤	四、八四三斤	五、五二五斤	七、〇一五斤	二、九一〇斤	八、八五〇斤
三	普通植	砂糖量	五、〇八〇斤	八、六三〇斤	一〇、〇二九斤	二、九三七斤	五、五七四斤	五、九一七斤	四、二七〇斤	八、五二〇斤

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ八ケ年ノ平均成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當量	八ヶ年平均	位次
一	二本植	砂莖糖量	六、一八一	三
二	全莖植	砂莖糖量	六、五二七	一
三	普通植	砂莖糖量	六、四七二 六三六	二

(五) 結論

今四十一年度ヨリ大正四年度ニ至ル八ヶ年間ノ平均成績ニ就キテ之レヲ見ルニ蔗莖數量ニ於テモ砂糖收量ニ於テモ全莖植ヲ第一位トシ普通植之レニ次ギ二本植最モ劣レリ、尙精細ニ檢スル時ニ於テ全莖植ト普通植トノ差ハ莖ニ於テ僅カ五拾五斤ニシテ砂糖收量ノ差實ニ壹斤ニ過キズ而シテ全莖植ノ場合ニ於テハ製糖ニ供シ得ル蔗莖ヲ挿植スルモノナレバ製糖ニ於ケル損失ヲ考フル時ハ全莖植ハ經濟上誠ニ不利益ナルヲ知ルベシ

其差極メテ大ナル場合ニ於テ或ハ利益アランモ砂糖壹斤位ノ差ニシテハ敢テ全莖植ヲナスノ必要ヲ認メザルナリ

△要之。蔗苗挿植ノ方法ハ普通栽培法ノ如ク梢部苗一本宛長植トナスヲ好シトス

六、植方試驗

(一) 目的

本試驗ハ明治四十一年度ヨリ大正四年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ苗ヲ植エルニ垂直ニ立ツルト四十五度ニ傾クルト水平ニ横フルト何レヲ最可トスルカラ見ントスルニアリ

(二) 設計

設計ハ左ノ如シ

區名	試驗別	反當量
一	垂直植	五、六〇〇
二	四十五度植	五、三三〇
三	水平植	五、〇〇〇

(三) 累年成績

累年成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當量	四十一年度	四十四年度	大正元年度	二年度	三年度	四年度
一	垂直植	砂莖糖量	五、六〇〇	四、三二五	五、二九五	六、四〇七	三、八三〇	六、二六〇
二	四十五度植	砂莖糖量	六、八五〇	四、八〇四	四、九八	六、二八	三、六四	五、七六
三	水平植	砂莖糖量	六、一〇〇	四、三三七	五、五七四	四、九四三	四、三一五	五、八四〇
			六、三三〇	六、六五九	六、九二八	五、三〇二	四、二六〇	六、〇〇〇
			六、〇五	五、七九九	六、七九	五、二二	四、〇〇〇	六、三三

(四) 平均成績

區名	試驗別	反當量	六ヶ年平均	位次
一	垂直植	砂莖糖量	五、二八五	三
二	四十五度植	砂莖糖量	五、三八八	二
三	水平植	砂莖糖量	五、九一四 五七八	一

(五) 結論

明治四十一年ヨリ累年ノ成績ニヨリテ其順位ヲ見ルニ

年次	糖收量		
	第一位	第二位	第三位
明治四十一年度	水 平 植	水 平 植	垂 直 植
全 四十四年度	水 平 植	水 平 植	垂 直 植
大正元年度	水 平 植	水 平 植	垂 直 植
全 二年度	垂 直 植	水 平 植	垂 直 植
全 三年度	垂 直 植	垂 直 植	垂 直 植
全 四年度	水 平 植	垂 直 植	垂 直 植

右ノ如ク累年ノ成績ニ於テハ水平植最良好ニシテ四十五度植之レニ次ギ垂直植最劣レルヲ見ル

今平均ノ成績ニ依リテ見ルモ水平植最良好ニシテ四十五度植之レニ次グルヲ見ル、故ニ挿苗ニ際シテハ水平植トナスヲ最モ宜シトス、然シ乍ラ挿苗ノ方式ハ地中水濕ト甚大ノ關係アルモノニシテ水平植ハ勢ヒ旱害ニ罹リ易キヲ免カレズ、サレバ水濕充分ナラザル處ニアリテハ稍ヤ斜挿トセザレバ發芽不良ニシテ缺損株モ多ク發芽後ノ生育モ不良ニ陥ルノ恐アルベシ

△要之。挿苗ノ方式ハ普通水濕充分ナル處ニアリテハ水平植ヲ良好トナスヲ以テ此ノ方式ニ依リテ可ナリ、若シ水濕ノ不充分ナル地方ニアリテハ稍斜挿(二十度位)トナスヲ最モ安全ナル方式トナス

七、深溝植試驗

(一) 目的

本試驗ハ明治四十二年度ヨリ大正二年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ深キ溝底ニ甘蔗ヲ植付クルコトニ由テ暴風ノ被害ヲ何程マデ輕減シ得ヘキカラ見且ツ其生育狀況收量及品質等ヲ通常作ト比較セントスルニアリ

(二) 設計

試驗設計左ノ如シ

區名	試驗別	反當	四十二年度	四十三年度	大正元年度	大正二年度
一	讀谷山深溝	砂莖糖量	二、五〇七斤	六、一〇〇斤	三、一五八斤	七、〇八七斤
二	讀谷山深溝	砂莖糖量	二、七二二斤	六、九六六斤	三、二二五斤	六、九九五斤
三	廣東東深溝	砂莖糖量	一、九三七斤	四、二九〇斤	三、四六三斤	五、九二五斤
四	廣東東深溝	砂莖糖量	一、一七二斤	四、七三三斤	三、二二九斤	五、八八一斤
五	廣東東深溝	砂莖糖量	一、九三七斤	四、七三三斤	三、二二九斤	五、八八一斤
六	廣東東深溝	砂莖糖量	一、九三七斤	四、七三三斤	三、二二九斤	五、八八一斤

(三) 累年成績

明治四十二年度以降累年成績左ノ如シ

區名	試驗別	反當	四十二年度	四十三年度	大正元年度	大正二年度
一	讀谷山深溝	砂莖糖量	二、五〇七斤	六、一〇〇斤	三、一五八斤	七、〇八七斤
二	讀谷山深溝	砂莖糖量	二、七二二斤	六、九六六斤	三、二二五斤	六、九九五斤
三	廣東東深溝	砂莖糖量	一、九三七斤	四、二九〇斤	三、四六三斤	五、九二五斤
四	廣東東深溝	砂莖糖量	一、一七二斤	四、七三三斤	三、二二九斤	五、八八一斤
五	廣東東深溝	砂莖糖量	一、九三七斤	四、七三三斤	三、二二九斤	五、八八一斤
六	廣東東深溝	砂莖糖量	一、九三七斤	四、七三三斤	三、二二九斤	五、八八一斤

區名	試驗別	反當	自四十二年度 至大正二十二年 四ヶ年	位次	自四十三 年三ヶ年	位次
四	全通	砂莖糖量	11	1	2,540	2,540
五	ローズバンブー深溝	砂莖糖量	1,680	2	2,490	2,490
六	全通	砂莖糖量	11	3	3,395	3,395

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	自四十二年度 至大正二十二年 四ヶ年	位次	自四十三 年三ヶ年	位次
一	讀谷山深溝	砂莖糖量	4,715	1	5,448	2
二	讀谷山通常	砂莖糖量	4,977	2	5,893	1
三	廣東深溝	砂莖糖量	3,034	3	3,399	4
四	廣東通常	砂莖糖量	2,977	4	3,337	3
五	ローズバンブー深溝	砂莖糖量	1,622	5	1,628	6
六	ローズバンブー通常	砂莖糖量	1,477	6	2,802	5

(五) 結論

今累年ノ成績ニ依リテ之レヲ見ルニ

年次	砂糖收量		
	第一位	第二位	第三位
四十三年度	通常植(讀谷山)	深溝植(讀谷山)	深溝植(廣東)
大正元年度	通常植(讀谷山)	通常植(廣東)	深溝植(讀谷山)
大正二年度	深溝植(讀谷山)	通常植(讀谷山)	深溝植(廣東)

右ノ如ク通常植ハ最モ多ク第一位、第二位ヲ占メタリ
今平均ノ成績ヲ案ズルニ左ノ如シ

三ヶ年平均	第一位		第二位	
	通常植(讀谷山)	深溝植(讀谷山)	深溝植(廣東)	深溝植(ローズバンブー)
全上	通常植(廣東)	深溝植(廣東)	深溝植(讀谷山)	深溝植(ローズバンブー)
全上	通常植(讀谷山)	深溝植(讀谷山)	深溝植(廣東)	深溝植(ローズバンブー)

以上ノ如ク各品種共ニ通常植ヲ第一トシ深溝植ハ通常植ニ及バザルヲ示セリ
△要之。『甘蔗ノ植方ハ日本内地ニ於テハ通常ノ耕種方法ニ依ルヲ良好トシ深溝植ハ其効力無キモノナリ』
八、一株本數試驗

(一) 目的

本試驗ハ明治四十一年度ヨリ大正元年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ一株ノ本數ヲ制限スル事カ甘蔗ノ品質ニ及ホス影響ヲ見併セテ一株本數ヲ幾個ニスルガ有利ナルカラ知ラントスルニアリ

(二) 設計

試験設計左ノ如シ

區名	試驗別	試驗別
一	全莖立	全莖立
二	七本立	七本立
三	六本立	六本立
四	五本立	五本立
五	四本立	四本立

(三) 累年成績
累年ノ成績左ノ如シ

區名	試驗別	反當	四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	元年度
一	全莖立	砂莖糖量	九、〇五〇	一〇、〇〇〇	一一、二六八	六、一六二	八、二〇〇
二	七本立	砂莖糖量	八、四〇〇	一〇、三〇〇	一一、二七三	四、八八一	六、六〇六
三	六本立	砂莖糖量	七、三〇〇	一〇、〇六八	一一、〇〇一	七、二二八	七、六四〇
四	五本立	砂莖糖量	六、二二〇	八、八二〇	一〇、八五〇	六、八八二	六、六八七
五	四本立	砂莖糖量	四、九五〇	七、三二〇	八、五九五	五、七八三	五、九九二

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	自四十年 至大正元 年度	自四十二年 至大正元 年度
一	全莖立	砂莖糖量	九、〇六八	九、〇六八
二	七本立	砂莖糖量	八、五六六	八、四〇七
三	六本立	砂莖糖量	八、六〇七	九、二〇〇
四	五本立	砂莖糖量	七、五一四	九、〇〇九
五	四本立	砂莖糖量	七、六〇〇	八、九三三

(五) 結論
右ノ累年ノ成績ヨリ其順位ヲ見ルニ

年次	第一	第二	第三
四十年	全莖立	六本立	五本立
四十一年	全莖立	六本立	五本立
四十二年	全莖立	六本立	五本立
四十三年	六本立	五本立	四本立
四十四年	六本立	五本立	四本立
大正元年	七本立	六本立	五本立

右ノ成績ヨリ之ヲ案スルニ最多ク第一位ヲ占ムルハ七本立及六本立ニシテ第二位ニ於テハ七本立及全莖立最モ多ク

六本立之レニ次グ即チ六本立七本立及全莖立ハ良好ナルモノナルコトヲ示ス
今之レガ平均成績ニ依リテ考フルニ

平均年數	砂糖收量			備考
	第一位	第二位	第三位	
五ヶ年平均	六本立	全莖立	五本立	七本立ヲ加入セズ
四ヶ年平均	七本立	六本立	全莖立	
平均年數	第一位	第二位	第三位	

右ノ如ク平均成績ニ於テモ七本立ヲ以テ最モ良好トシ六本立全莖立之レニ次クヲ見ル

△要之。蔗莖ノ立テ方ハ餘リ制限ヲ加フルヨリモ六、七本位迄ハ放置シ劣惡ナル莖ノミ僅カニ剪除スルヲ宜シトス
株出ノ場合ニ於テハ其勢力ヲ旺盛ナラシムル爲メ全莖立ヨリモ六七本迄ハ制限ヲ加フルヲ良好ナル方法トナス

九、條幅株間試験 (甲)

(一) 目的

本試験ハ明治四十一年度ヨリ大正五年度マデ繼續施行セルモノニシテ目的ハ讀谷山ノ如キ小莖種ヲ栽培スルニ當
リ大島ニ適當セル作條ノ幅ト株間ノ距離トヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

試験設計左ノ如シ

區名	試驗別	
	條幅	株間
一	二、〇	一、〇
二	二、〇	一、五
反當本數		

(三) 累年成績
累年成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別		反當本數	累年成績				
	條幅	株間		四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	元年度
一	二、〇	一、〇	二、〇	五、七七八				
二	二、〇	一、五	二、〇	七、五八〇				
三	二、〇	二、〇	二、〇	五、八六二				
四	二、〇	二、〇	二、〇	五、三三四				
五	二、〇	二、〇	二、〇					
六	二、〇	二、〇	二、〇					
七	二、〇	二、〇	二、〇					
八	二、〇	二、〇	二、〇					
九	二、〇	二、〇	二、〇					
十	二、〇	二、〇	二、〇					
十一	二、〇	二、〇	二、〇					
十二	二、〇	二、〇	二、〇					
十三	二、〇	二、〇	二、〇					
十四	二、〇	二、〇	二、〇					
十五	二、〇	二、〇	二、〇					
十六	二、〇	二、〇	二、〇					

(四) 平均成績

十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四
四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	三、五	三、五	三、五	三、五	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	二、〇
二、五	二、〇	一、五	一、〇	二、五	二、〇	一、五	一、〇	二、五	二、〇	一、五	一、〇	二、五
砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量
五、三一六	五、九二二	四、八二二	三、三三八	五、三三二	四、八〇二	五、八〇二	六、四五〇	五、五二二	五、八九八	五、八九八	六、四〇二	五、八一四
	一〇、〇四四	七、二四八	五、六八八		九、五〇〇	八、八〇〇	九、〇四八	七、二二六		九〇、〇二二	九〇、〇二二	
	一〇、五七二	八、九一六	七、五三六		一〇、〇二六	九、四二二	一〇、五四八	八、七二四		一、〇四七	一、〇四七	
	三、四七八	四、四四五	四、九一八		三、八七二	四、五二二	三、八〇〇	四、三六八		三、九一五	三、九一五	
	五、二一四	六、四四〇	七、四七七		五、二一一	六、〇六三	六、六三三	七、三〇三		四、二二五	四、二二五	
	六、二六五	六、六八一	七、〇〇五		五、九六七	六、三三三	六、三三八	六、〇九六		四、六六三	四、六六三	
	二、六七七	三、三五〇	三、八八八		三、八七七	四、四四三	五、〇八八	三、九八三		四、七三〇	四、七三〇	
	九、三三三	七、九七二	九、九九二		八、七四八	七、二二七	一、〇〇七	九、九一五		九、六六三	九、六六三	
	七、八一七	八、一五八	七、九一七		七、三〇四	六、五七七	七、〇〇八	六、九五〇		六、七六七	六、七六七	

累年成績ニ基キ九ケ年間ノ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

試験別	反當本數		收反量當	九ケ年平均	位次
	株間	幅			
砂莖糖量	三、六〇〇	一、〇	六、二四〇	六	
砂莖糖量	二、四〇〇	一、五	六、九四三	二	
砂莖糖量	一、八〇〇	二、〇	六、九〇九	四	
砂莖糖量	三、〇八五	一、〇	六、八六一	三	
砂莖糖量	二、〇五四	一、五	七、四八三	一	
砂莖糖量	一、五四〇	二、〇	六、八六〇	五	
砂莖糖量	二、七〇〇	一、〇	六、四一九	九	
砂莖糖量	一、八〇〇	一、五	六、六三七	八	
砂莖糖量	一、三五〇	二、〇	六、八一六	七	

(五) 結論

右ノ九ケ年平均ノ成績ヨリ之レヲ案スルニ畦幅三尺五寸株間一尺五寸ノモノ最モ良好ニシテ畦幅三尺株間一尺五寸ノモノ之レニ次キ畦間三尺五寸株間一尺ノモノ之レニ亞グリ即チ一反歩當株數貳千本乃至參千本ヲ以テ適當ナル事

ヲ示ス

今普通農家ノ行フ處ヲ見ルニ畦幅二尺五寸株間壹尺二寸ヲ以テ普通トセリ即チ一反步當參千六百本ニシテ株數多キニ過ギタリ

(△)要之「畦幅ハ三尺乃至三尺五寸ヲ適當トスルモ三尺以上アラバ甘蔗ノ生育及圃場ノ管理ニハ充分ナリ若シ綠肥ノ間作ヲ行フ場合ニハ三尺五寸トナセバ良好ナル結果ヲ得ベシ

株間ハ一尺乃至一尺五寸ヲ適當トス株間ハ畦幅ト異ナリ作業ニ關係少キヲ以テ一尺二寸又ハ一尺五寸ニテ可ナリ

苗ノ數ノ余リ多キニ過グルハ經濟上ニモ勞力上ニモ不利益ナルヲ免レズ貳千五百本(反)位ヲ標準トスルヲ宜シトス

此試驗ノ結果ニ從ヘバ畦幅三尺五寸、株間一尺五寸(反當株數貳千五百本)ヲ以テ最モ良好ナリトシ次イテ畦幅

三尺、株間一尺五寸(反當貳千四百本)ヲ良好ナリトス」

十、覆土試驗 (甲)

(一)目的

本試驗ハ明治四十一年度及四十二年度ノ二ヶ年繼續施行セルモノニシテ成績確定セルモノト認ム、其目的ハ挿苗

セル種苗ヲ覆フ土ノ厚薄ガ其發芽ニ及ボス影響ヲ見テ適當ナル覆土ノ程度ヲ究知セントスルニアリ

(二)設計

試驗設計左ノ如シ

蔗苗ヲ四十五度ノ傾斜ヲ以テ挿植シ之レガ覆土ノ厚サヲ左ノ如クセリ

區名	試驗別	備考
一	普通覆	苗ノ上端僅カニ覆土ス

區名	試驗別	反當	四十一年度	四十二年度
二	二寸覆	苗ノ上端ヨリ二寸ノ厚サニ覆土ス	五、二七〇	九九、四
三	四寸覆	苗ノ上端ヨリ四寸ノ厚サニ覆土ス	八八、八	五八、〇
四	六寸覆	苗ノ上端ヨリ六寸ノ厚サニ覆土ス	二、七二〇	三九、四

(三)累年成績
累年成績ノ中莖量及發芽歩合ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	四十一年度	四十二年度
一	普通覆	發莖歩合量	五、二七〇	九九、四
二	二寸覆	發莖歩合量	二、七二〇	五八、〇
三	四寸覆	發莖歩合量	一、七六〇	三九、四
四	六寸覆	發莖歩合量	一、四六〇	一一、四

(四)平均成績
累年成績ニ依リ二ヶ年ノ平均成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	二ヶ年平均	位次
一	普通覆	發莖歩合量	五、二七〇 九四、一	一
二	二寸覆	發莖歩合量	二、七二〇 五〇、一	二

三	四寸覆	發莖	芽步	合量	三七六〇	三
四	六寸覆	發莖	芽步	合量	一四六〇	四

(五) 結論

明治四十一年全四十二年度ノ累年成績ニ依リ年々ノ順位ヲ見ルニ

年次	發芽			蔗莖		
	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位
明治四十一年度	普通覆	二寸覆	三寸覆	普通覆	二寸覆	三寸覆
全四十二年度	普通覆	二寸覆	三寸覆	普通覆	二寸覆	三寸覆

右ノ成績ヨリ案スルニ各年共ニ普通覆ノ良好ナル事ヲ示シ又平均成績ニ於テモ發芽歩合、蔗莖收量共ニ普通覆ヲ最好トシ覆土厚クナルニ從ヒ成績不良ナル事ヲ示セリ

△要之「挿苗後覆土ノ厚サハ斜挿ニアリテハ苗ノ上部ヲ僅カニ覆ヒ陰ス程度ニ止ムルヲ良好ナリトス」

(一) 目的

本試験ハ大正五年度ニ於テ施行シタルモノニシテ甘蔗苗ヲ水平ニ植付クルニ際シ最モ適當ナル覆土ノ厚サヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

蔗苗ノ植方ヲ水平植トナシ覆土ノ厚サヲ左ノ如クナス

區名	試驗別	大正五年度	順砂糖收量
一	苗ノ全部隠ルル迄覆土ス	六、八三二	二
二	苗ノ上面覆出	六、七三三	四
三	覆土一寸五分	六、三四九	一
四	覆土三寸	六、八一六	三

(三) 成績

區名	試驗別	大正五年度	順砂糖收量
一	苗全部被覆ス	六、八三二	二
二	苗ノ上面露出ス	六、三四九	四
三	覆土一寸五分	六、八一六	一
四	覆土三寸	六、七三三	三

(四) 結論

右ノ成績ヨリ之レヲ案スルニ蔗莖收量及砂糖收量最モ多キハ覆土一寸五分區ニシテ苗全部被覆區之レニ次ギ苗ノ上面露出セルモノ最モ劣リトス

△要之「苗ノ挿方ニ依リ覆土ニ差ノアルモノニシテ蔗苗水平植ノ場合ニハ斜挿ノ場合ト異ナリ覆土ノ厚サヲ一寸五

分内外トスルヲ最モ良好ナリトス

十二、要素比較試驗 (甲)

(一) 目的

本試驗ハ明治四十一年度ヨリ大正五年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ肥料三要素ノ奏効程度ヲ比較セントスルニ在リ

(二) 設計

方六尺ノ亞鉛製框十個ヲ用ヒ各框六株植トシ各要素ノ量ハ一反步當八貫目ヲ施シタリ
各要素ハ窒素肥料トシテ硫酸安母尼亞、磷酸肥料トシテ磷酸曹達加里肥料トシテ硫酸加里ヲ用キタリ
設計左ノ如シ

區別	試驗別	肥料用量 (反當)		窒素	磷酸	加里
		肥料名	用量			
一	無肥料	炭酸安母尼亞	四、五、六、八、五	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
二	無窒素	硫酸安母尼亞	一、六、六、六、七	八、〇、〇、〇、〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
三	無磷	磷酸曹達加里	四、三、九、〇、二	八、〇、〇、〇、〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
四	無加里	硫酸安母尼亞	四、五、六、八、五	八、〇、〇、〇、〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
五	完全區	炭酸安母尼亞	一、六、六、六、七	八、〇、〇、〇、〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一

(三) 累年成績

累年ノ試驗成績ヲ示セバ左ノ如シ

(大正三年度ハ暴風被害ノ爲メ成績不明ニ付キ之レヲ省ケリ)

區名	試驗別	反當	四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	元年度	二年度	三年度	四年度	五年度
一	無肥料	純莖度量	二、九八三	二、二八七	三、〇八四	一、一〇一	二、三三三	一、三五〇	一、一〇〇	四、二〇〇	四、二〇〇
二	無窒素	純莖度量	八、六、六	八、七、五	八、七、五	一、〇二〇	九、五、六	二、一〇〇	八、〇、〇	四、〇、〇	七、〇、〇
三	無磷	純莖度量	三、七、八	二、五、六	四、二、三	八、九、一	一、〇二〇	二、一〇〇	八、四、六	四、〇、〇	八、〇、〇
四	無加里	純莖度量	四、七、四	四、五、九	八、五、〇	八、二、二	三、三、三	三、三、三	九、三、四	四、八、〇	八、〇、〇
五	完全區	純莖度量	五、四、九	一、二、五	八、五、七	八、五、九	三、四、一	四、九、八	一、一、一	四、三、五	九、四、五

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ九ケ年間ノ平均成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	八ケ年(大正三年缺ク)平均	位次
一	無肥料	純莖度量	二、三、二〇	五
二	無窒素	純莖度量	八、七、〇〇	四
三	無磷	純莖度量	二、八、二一	二
四	無加里	純莖度量	八、五、六	三

五 完全區 純莖度量

四、七九八 八八五

五〇

(五) 結論

明治四十一年以降ノ試驗累年成績ニ依リ年々ノ成績順位ヲ考フルニ

年次	莖量			純度		
	第一位	第二位	第三位	第一位	第二位	第三位
明治四十一年度	完全區	無磷酸區	無加里區	無肥料區	完全區	無加里區
全四十二年度	完全區	無磷酸區	無加里區	無磷酸區	完全區	無加里區
全四十三年度	完全區	無磷酸區	無加里區	無磷酸區	完全區	無加里區
全四十四年度	完全區	無磷酸區	無加里區	無磷酸區	完全區	無加里區
大正元年度	無磷酸區	完全區	無加里區	完全區	無加里區	無磷酸區
全二年度	完全區	無加里區	無磷酸區	無肥料區	完全區	無加里區
全三年度	無磷酸區	完全區	無加里區	無磷酸區	完全區	無加里區
全四年度	無磷酸區	完全區	無加里區	無磷酸區	完全區	無加里區
全五年度	完全區	無磷酸區	無加里區	無磷酸區	完全區	無加里區

右ノ成績ヨリ案スルニ完全肥料區最モ良好ニシテ無磷酸區之レニ次ギ無加里區之レニ亞ゲリ即チ成分ノ重要程度ヨリ云ヘバ窒素質肥料ヲ第一トシ加里質肥料ヲ第二トシ磷酸質肥料之レニ次グ事トナル尙ハケ年平均成績ニ依リテ見ルニ完全肥料區ヲ第一トシ無磷酸區無加里區順次之レニ次グ之レニ依リテ考フルニ無窒素ノ收量ハ完全肥料ヲ施セルモノニ比シテ遙カニ少シ(約二十斤少ナク)無肥料ニ比シテ少シク多キニ過ギズ(約五百斤多シ)サレバ磷酸加里ヲ充分施ストモ窒素質肥料ヲ施サザル時ハ其効果ナキヲ知ルベシ

又無磷酸區ノ收量ハ無肥料區ニ比シテ遙カニ多キノミナラズ約(貳千斤多シ)完全肥料區ニ比シテ少ナキト僅カ四十六拾斤ニ過ギズ恰度前記窒素質肥料ト反對ノ結果ヲ現ハスヲ見ルベシ
即チ無磷酸區ハ完全肥料ニ比シテ少シク劣ルノミニシテ磷酸ノ効能著シカラザル事ヲ示ス、之レ土壤ノ吸收率ニ依ルモノノ如シ
又無加里區ハ完全肥料ニ比シテ遙カニ少ナク(約千八百斤少シ)無肥料區ニ比シテ約七百斤多キニ過ギズ此者モ窒素質肥料ノ場合ト同ジク必要ナル肥料ナル事ヲ示ス
△要之「甘蔗作ノ肥料トシテハ本場ノ土壤ニ於テ窒素質肥料ヲ最モ必要トシ加里質肥料之レニ亞ギ磷酸質肥料之レニ亞グモノナリ」

十三、要素比較試驗 (乙)

(一) 目的

本試驗ハ明治四十四年度ヨリ大正五年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ圃場試驗ニ於テ甘蔗栽培ニ必要ナル要素ヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

圃場ニ於テ試驗セルモノニシテ設計左ノ如シ

區名	試驗別	肥料用量(反當)			三要素要	磷	酸	加	量
		肥料名	用	量					
一 無肥料	無肥料								
二 無窒素	炭磷酸加里	磷酸加里	1	1	1	1	1	1	1

(三) 累年成績		五	四	三
試驗別	反當	完全區	無加里	無磷酸
四十四年度	元年度	二、九六六 二、八六六 二、五二二	三、九五六 三、六八八 三、三六一	三、九五六 三、六八八 三、三六一
二年度	三年度	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇
四年度	五年度	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇

區名	試驗別	反當	(四) 平均成績				
			一	二	三	四	五
一	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四
二	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四
三	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四
四	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四
五	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四	三、三五四

累年成績ニ基キ六ケ年ノ平均成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	六ケ年平均	位次
一	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	五
二	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	五
三	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	五
四	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	五
五	無肥料	砂莖糖量	三、三五四	五

(五) 結論

右ノ六ケ年平均成績ヨリ之レヲ案スルニ地力ノ平均充分ナラザル爲メ成績完全ナリト云フ能ハザルモ肥料トシテ必要ノ程度ヨリ考フルニ加里肥料、窒素肥料、磷酸肥料ノ順次トナレリ、之レヲ前章要素比較試驗(甲)ニ記載セルモノニ比スルニ畧ボ一致セル處アリ即チ加里質肥料ハ窒素質肥料ト殆ンド全程度ニ必要ノモノニシテ磷酸質肥料ハ前二者ニ比シテ遙カニ必要少ナキモノナルコトヲ示ス

十四、要素用量試驗

(一) 目的
本試驗ハ明治四十一年度ヨリ大正五年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ甘蔗ノ施肥上各要素ノ適量ヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

明治四十一年度ハ方三尺ノ木框貳拾九個ヲ用キ各框ニ株植トシ四十二年度ヨリハ方六尺深サ二尺ノ亞鉛框ヲ用キ

一畝六株植トセリ

各要素ハ窒素肥料トシテハ硫酸安母尼亞、磷酸肥料トシテハ磷酸曹達加里肥料トシテハ炭酸加里ヲ使用シタリ
設計左ノ如シ

區名	試驗別	肥料用量 (反當)			三要素	磷酸加里
		硫酸安母尼亞	磷酸曹達	炭酸加里		
一	窒素列無窒素	四、八七八	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
二	窒素一貫	九、七五六	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
三	窒素二貫	一四、六三四	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
四	窒素三貫	一九、五二二	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
五	窒素四貫	二四、三九〇	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
六	窒素五貫	二九、二六八	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
七	窒素六貫	三四、一四六	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
八	窒素七貫	三九、〇二四	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
九	窒素八貫	四三、九〇二	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十	窒素九貫	四八、七八〇	四、五、六八四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十一	磷酸列無磷酸	四三、九〇二	一、〇、一五二	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十二	磷酸一貫	四三、九〇二	一、五、〇七六	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十三	磷酸二貫	四三、九〇二	二、〇、一五二	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十四	磷酸三貫	四三、九〇二	二、五、〇二八	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十五	磷酸四貫	四三、九〇二	三、〇、九〇四	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十六	磷酸五貫	四三、九〇二	三、五、七八〇	一、六、六六八	九、〇〇〇	
十七	磷酸六貫	四三、九〇二	四、〇、六五六	一、六、六六八	九、〇〇〇	

(三) 累年成績

區名	試驗別	反當	年度							
			四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	元年度			
一	無窒素列	純莖度量	二、五五〇	三、〇〇〇	二、六四五	一、三三五	二、〇〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇
二	窒素一貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
三	窒素二貫	純莖度量	五、三〇三	八、二五〇	一、五、四七六	一、八六八	二、七九〇	九、〇六	九、〇六	九、〇六
四	窒素三貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
五	窒素四貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
六	窒素五貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
七	窒素六貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
八	窒素七貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
九	窒素八貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
十	窒素九貫	純莖度量	八、八二	九、三〇八	八、八〇	一、八六八	七、六七一	八、四六	八、四六	八、四六
十一	加里列無加里	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十二	加里一貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十三	加里二貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十四	加里三貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十五	加里四貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十六	加里五貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十七	加里六貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十八	加里七貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
十九	加里八貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十	加里九貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十一	加里列無加里	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十二	加里一貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十三	加里二貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十四	加里三貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十五	加里四貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十六	加里五貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十七	加里六貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十八	加里七貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
二十九	加里八貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
三十	加里九貫	純莖度量	四三、九〇二	四、五、六八四	一、八五二	一、八五二	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇

十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五
全	全	全	全	全	全	全	全	無 磷 酸 列	全	全	全	全	全	全
八	七	六	五	四	三	二	一		九	八	七	六	五	四
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	酸	貫	貫	貫	貫	貫	貫
純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖
度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量
七、三五〇	八、四二〇	八、一〇〇	八、一〇〇	七、三〇〇	八、二〇〇	八、一〇〇	八、一〇〇	七、二二五						八、七二二
九、二二〇	九、四二〇	六、〇〇〇	九、七〇〇	九、二〇〇	九、三〇〇	九、四〇〇	九、四〇〇	九、一〇〇						五、一〇〇
九、〇二四	八、九〇〇	一、三七九	一、七二〇	一、七二〇	八、八〇〇	一、七五二	八、八〇〇	一、六二二						九、一〇〇
														一、七五八
														九、一〇〇
														二、三七一
														二、三七一
														二、四六〇
														八、〇〇〇
														九、三〇七
														九、二〇七
														三、五〇〇
														九、二〇〇
														九、二〇〇
														五、〇〇〇
														九、二〇〇
														八、二〇〇
														九、二〇〇
														五、九五〇
														八、二〇〇
														五、〇〇〇

五六

二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十
全	無 加 里 列	全	全	全	全	全	全	全	全	全
九	加	一	二	三	四	五	六	七	八	九
貫	里	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖
度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量
		四、八八八	三、五〇三	九、五七五	八、七〇〇	八、六八八	八、四〇〇	八、二九〇	七、〇二二	
		五、七五二	四、五二八	二、四五二	九、三〇七	五、〇三三	五、九四二	六、八二五	四、五〇〇	
		八、二〇〇	九、三二二	四、〇四六	九、〇二二	八、六八八	九、八二二	九、八二二	九、二一〇	
		一、六三三	八、三二二	一、〇三三	八、六八八	九、五九二	一、七二二	一、五六一	一、二七八	
		二、六八三	二、一八八	三、六九二	二、一七九	一、二四九	二、一六六	二、二六三		
		二、八八六	八、〇六一	三、八四四	一、八八四	三、八四四	二、七三九	二、七〇三		
		三、八一〇	九、二〇三	四、二九〇	九、二〇三	九、一〇二	四、四四六	四、六二〇		
		八、八〇七	二、八五〇	九、二〇三	九、二〇三	九、二〇三	九、二〇三	九、二〇三		
		四、三三〇	六、六〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇		
		四、八〇〇	九、〇〇〇	四、八〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		
		九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇	九、二〇〇		

(備考)大正三年度ハ暴風雨ノ爲メ成績不確實ニ付省ケリ
(四)平均成績
累年成績ニ基キ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ
區名 試驗別 反當 六ヶ年平均 (四十四、元、三年省ク) 位次
四十一、元乃至大正五年

五七

二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二十二	二十一	十九	十八	十七	十六	十五
全	全	全	全	全	全	全	加	無	全	全	全	全	全
八	七	六	五	四	三	二	里	加	八	七	六	五	四
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	里	里	貫	貫	貫	貫	貫
純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖
度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量
六、八七九	七、二四九	七、五三一	五、四二五	六、七二五	六、三三三	七、二七七	八、八二二	六、六六六	七、五〇二	八、八二二	七、七六八	八、八二二	六、一〇四
四	三	一	九	五	八	二	七	六	四	七	一	三	九

十四	十三	十二	十一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
全	全	全	無	磷	全	全	全	全	全	全	全	無	窒
三	二	一	磷	酸	八	七	六	五	四	三	二	一	窒
貫	貫	貫	酸	列	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	素
純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖	純莖
度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量	度量
七、二六二	七、三二七	七、〇二四	八、九〇〇	六、七七五	七、九一五	八、八五四	五、二七七	六、六九二	八、九〇四	七、〇〇四	八、七〇一	七、三三九	五、二三三
六	五	八	二	六	一	五	八	七	四	三	二	九	九

(五) 結論

右數年ノ平均成績ニ依リ之レヲ案ズルニ成績充分ナリト云フ能ハザルモ前章比較試驗ノ試驗成績ト畧ボ一致シ窒素質肥料ヲ最モ多量ニ要シ加里肥料之レニ次ギ磷酸質肥料ノ需要之レニ亞ゲルヲ知ル、其量ハ窒素七貫内外、磷酸六貫内外、加里六貫内外ヲ適量トスベシ

要之「本場ノ土壤ニ於ケル甘蔗作ニ對シ一反歩ニ要スル肥料ハ成分トシテ窒素ハ七貫内外、磷酸ハ六貫内外、加里ハ六貫内外ヲ適量トスル事ヲ知レリ」

十五、窒素質肥料種類試驗

(一) 目的

本試驗ハ大正元年度ヨリ大正二年度ニ至ルニケ年繼續施行セルモノニシテ其目的ハ大島ノ氣候、土質ニ於テ窒素質肥料中甘蔗ニ最モ適當スルモノヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

左ノ如シ

各區面積壹畝步植付株數二百四十株
肥料反當用量左表ノ如シ

試驗別	肥料名			總量	第一回施用	第二回施用	第三回施用
	肥料	名	用				
骨堆肥	骨堆肥	粉肥	粉肥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

大豆粕	智利硝石區			硫酸アンモニア區		
	大骨堆肥	過磷酸石灰	硫酸加里	骨堆肥	過磷酸石灰	硫酸加里
大豆粕	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
骨堆肥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
過磷酸石灰	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
硫酸加里	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

(三) 累年成績

左ノ如シ

區名	試驗別	反當	大正元年度		大正二年度	
			一	二	三	四
一	硫酸安母尼亞區	砂蔗糖莖	四、五五九	四、六六五	六、九六〇	七、一七一
二	智利硝石區	砂蔗糖莖	三、八八八	四、一八二	八、一一一	七、九五五
三	大豆粕區	砂蔗糖莖	四、二二七	四、五二七	七、七四九	七、八三三

(四) 平均成績

累年成績ニ依リ平均成績ヲ求ムレバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	自大正元年度 至大正二年度 二ヶ年平均	位次
一	硫酸安母尼亞	砂糖	五、七六〇	三
二	智利硝石	砂糖	六、〇〇〇	二
三	大豆粕	砂糖	五、九八八 六、二〇〇	一

(五) 結論

以上大正元年度、全二ヶ年ノ成績ニ依リ其順位ヲ見ルニ

年次	第一位	第二位
大正元年度	硫酸安母尼亞區	大豆
大正二年度	智利硝石	大豆粕

右ノ成績ヨリ見ルニ年々區々ニシテ一致セズ

之レガ平均成績ニ依リテ案ズルニ左ノ如ク大豆粕第一位ヲ占ムルヲ見ル

平均年數	第一位	第二位	第三位
二ヶ年平均	大豆粕	智利硝石	硫酸安母尼亞

△要之。此三種ノ肥料ハ其効力ニ於テ大差ナク何レヲ用ユルモ畧ボ全一ノ効力アルガ如シ只其肥料ノ効力ノ遲速價格ノ廉否等ヲ考ヘ適當ニ使用スルヲ要ス

十六、窒素質肥料種類試驗 (乙)

(一) 目的
本試驗ハ大正二年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ其目的ハ大島ノ氣候、土質ニ於テ窒素質肥料中甘蔗ニ最モ適當セルモノヲ知ラントスルニアリ前試驗ノ設計ヲ換ヘタルモノナリ

(二) 設計
左ノ如シ各區面積一畝歩植付株數二百四十株

區名	試驗別	肥料用量 (反當)	原肥	第一追肥	第二追肥	第三追肥	第四追肥	第五追肥
一	大豆粕區	大豆粕肥	六〇〇、〇〇〇	七、六八四	三、二〇〇	七、六八四	三、二〇〇	七、六八四
二	菜種油粕區	過磷酸石灰肥 炭酸加里 油粕	二八、〇八〇 六、四八〇 一一九、四二二	五、四〇〇	五、四〇〇	五、四〇〇	五、四〇〇	五、四〇〇
三	硫酸アンモニア區	過磷酸石灰肥 硫酸アンモニア	一〇〇、〇〇〇 二〇、五一三	七、九二〇	七、九二〇	七、九二〇	七、九二〇	七、九二〇
四	智利硝石區	過磷酸石灰肥 智利硝石	六〇〇、〇〇〇 二〇、五一三	六、四三九	六、四三九	六、四三九	六、四三九	六、四三九

(三) 累年成績
左ノ如シ

區名	試驗別	反當	大正二年度					三年度					四年度					五年度				
			堆肥	過磷酸灰	石灰	堆肥	過磷酸灰	石灰	堆肥	過磷酸灰	石灰	堆肥	過磷酸灰	石灰	堆肥	過磷酸灰	石灰	堆肥	過磷酸灰	石灰		
一	硫酸安母尼亞	砂莖糖量	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六	六、二六六			
二	智利硝石	砂莖糖量	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一	四、四一一			
三	石灰窒素	砂莖糖量	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六	四、六六六			
四	大豆粕	砂莖糖量	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五	五、四二五			
五	菜種油粕	砂莖糖量	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三	五、〇七三			
六	人糞尿	砂莖糖量	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一	三、五四一			

累年成績ニ基キ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	自大正二年度至大正五年度四ヶ年平均		位次
一	硫酸安母尼亞	砂莖糖量	七、〇三四	六、四五五	一
二	智利硝石	砂莖糖量	六、四一四	六、一四一	四
三	石灰窒素	砂莖糖量	五、七六三	五、四二二	五
四	大豆粕	砂莖糖量	七、一五五	六、二二三	二
五	菜種油粕	砂莖糖量	六、八五三	六、一五三	三
六	人糞尿	砂莖糖量	五、五三九	五、〇四九	六

(五) 結論

大正二年度ヨリ大正五年度ニ至ル平均成績ニ依リテ之レヲ見ルニ硫酸アンモニアヲ第一トシ大豆粕之レニ次ギ菜種油粕又之レニ亞ゲリ

此ノ三種ハ共ニ良好ナル窒素質肥料ニシテ最モ普通ニ用ユルハ硫酸アンモニア及大豆粕ニシテ殊ニ大豆粕ハ經濟的肥料トシテ尊バル只硫酸アンモニアハ連續使用スル時ハ土壤次第ニ酸性ヲ呈シテ「アンモニア」ノ効力減スルヲ以テ注意スルヲ要ス

現在ニ於テハ經濟上ト使用ノ難易ヨリ考ヘテ大豆粕ヲ獎勵シツツアリ

△要之「蔗作ニ對スル窒素質肥料トシテハ硫酸アンモニア及大豆粕ヲ最モ良好ナルモノナリトス而シテ經濟的ニシテ其効果ノ安全ナルハ大豆粕ヲ第一ニ推サザル可カラズ、硫酸アンモニアハ其使用ニ注意ヲ要スル點モアルヲ以テ農家ニ對シテハ大豆粕ヲ最モ適當ナルモノトシテ奨メントス」

十七、磷酸質肥料種類試驗

(一) 目的

本試驗ハ大正二年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ其目的ハ大島ノ氣候、土質ニ於テ磷酸質肥料ノ中適當ナルモノヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

各區面積二十四坪植付株數百九十二株
肥料用量左ノ如シ

區名	試驗別	肥料總量 (反當)	原肥	第一追肥	第二追肥	第三追肥	第四追肥	第五追肥	
一	重過磷酸石灰區	大豆	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		堆肥	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		木灰	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		炭酸アンモニア	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		炭酸加里	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		重過磷酸石灰	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		木灰	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		炭酸加里	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		硫酸アンモニア	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一
		大豆	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一	一	一	一	一

區名	試驗別	肥料總量 (反當)	原肥	第一追肥	第二追肥	第三追肥	第四追肥	第五追肥
二	過磷酸石灰區	硫酸アンモニア	二六、六九八	一	一	一	一	一
		炭酸加里	一五、九七四	一	一	一	一	一
		木灰	一五、九七四	一	一	一	一	一
		過磷酸石灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		堆肥	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		大豆	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		木灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		炭酸加里	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		硫酸アンモニア	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		骨粉	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
三	骨粉區	硫酸アンモニア	二六、六九八	一	一	一	一	一
		炭酸加里	一五、九七四	一	一	一	一	一
		木灰	一五、九七四	一	一	一	一	一
		過磷酸石灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		堆肥	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		大豆	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		木灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		炭酸加里	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		硫酸アンモニア	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		骨粉	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
四	トーマス磷肥區	硫酸アンモニア	二六、六九八	一	一	一	一	一
		炭酸加里	一五、九七四	一	一	一	一	一
		木灰	一五、九七四	一	一	一	一	一
		過磷酸石灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		堆肥	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		大豆	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		木灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		炭酸加里	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		硫酸アンモニア	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		トーマス磷肥	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
五	蒸製骨粉區	硫酸アンモニア	二六、六九八	一	一	一	一	一
		炭酸加里	一五、九七四	一	一	一	一	一
		木灰	一五、九七四	一	一	一	一	一
		過磷酸石灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		堆肥	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		大豆	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		木灰	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		炭酸加里	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		硫酸アンモニア	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一
		蒸製骨粉	六〇〇,〇〇〇	一三、六〇〇	一	一	一	一

(三) 累年成績
左ノ如シ

區名	試驗別	反當	大正二年度	三年度	四年度	五年度
一	重過磷酸石灰	砂蔗糖莖	八、六八〇斤	四、一七五斤	八、一二五斤	七、二九〇斤
二	過磷酸石灰	砂蔗糖莖	九、二〇〇	四、〇〇〇	八、一三五	六、五〇〇
三	骨粉	砂蔗糖莖	九、〇〇〇	三、九〇〇	八、三二五	七、八七二
四	トーマス磷肥	砂蔗糖莖	六、九四九	三、六八一	七、六二五	六、七九二
五	蒸製骨粉	砂蔗糖莖	六、〇三六	二、九八八	六、九三九	七、七二二
六	鏗荒粕	砂蔗糖莖	五、四二六	三、五三七	六、七二五	六、七五九
			五、四〇八	二、九八八	五、八〇〇	六、七五九
			五、一〇八	二、七二二	五、八〇〇	七、三〇八
			五、一〇八	二、七二二	六、〇〇九	七、三二二

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	自大正二年至大正五年四ヶ年平均	位次
一	重過磷酸石灰	砂蔗糖莖	七、〇六八	二
二	過磷酸石灰	砂蔗糖莖	七、四七三	一
三	骨粉	砂蔗糖莖	六、二六二	三

(五) 結論

今大正二年ヨリ大正五年ニ至ル年々ノ成績ニ依リ之レガ順位ヲ調ブルニ

年次	第一位	第二位	第三位
大正二年度	重過磷酸石灰	過磷酸石灰	骨粉
大正三年度	過磷酸石灰	重過磷酸石灰	骨粉
大正四年度	過磷酸石灰	重過磷酸石灰	骨粉
大正五年度	トーマス磷肥	過磷酸石灰	蒸製骨粉

右ノ如ク四ヶ年中二ヶ年ハ過磷酸石灰ガ第一位ヲ占ムルヲ見ル、又大正二年ヨリ大正五年ニ至ル四ヶ年ノ平均成績ヲ見ルニ過磷酸石灰第一位ニシテ、重過磷酸石灰ハ第二位、骨粉ハ第三位タリ

斯クノ如ク磷酸質肥料トシテハ過磷酸石灰最モ良好ニシテ重過磷酸石灰骨粉ノ如キモ又之レニ次キテ良好ナリ

△要之『蔗作ニ對スル磷酸質肥料トシテハ過磷酸石灰最モ有効ニシテ經濟上ヨリ考フルモ此ノ肥料ヲ第一ニ推サザル可カラズ、未ダ農家ニ於テ磷酸肥料ノ必要ヲ充分覺知セルモノ少シト雖磷酸質肥料ノ必要ト共ニ此ノ過磷酸石灰ノ使用ヲ獎勵セザルベカラズ』

十八、大豆粕分施肥試驗

(一) 目的

本試験ハ大正元年度ヨリ大正五年度迄繼續施行セルモノニシテ其目的ハ甘蔗作ニ對シ大豆粕ハ何回ニ分施スルヲ以テ有利トナスヤヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

反常用量ハ堆肥六百貫、骨粉六貫、大豆粕三十貫トシ堆肥、骨粉ハ元肥ニ施用シ大豆粕ハ左ノ設計ニ依ル

區名	試驗別	反當	大正元年度	二年度	三年度	四年度	五年度
一	一回施用	全部元肥					
二	二回分施		二分ノ一元肥 二分ノ一植付後(又ハ刈取後)三ヶ月				
三	三回分施		三分ノ一元肥三分ノ一植付後(又ハ刈取後) 三ヶ月三分ノ一植付後(又ハ刈取後)五ヶ月				
四	四回分施		十貫元肥五貫植付後(又ハ刈取後)一ヶ月 五貫植付後(又ハ刈取後)三ヶ月十貫植付後(又ハ刈取後)五ヶ月				

(三) 累年成績

區名	試驗別	反當	大正元年度	二年度	三年度	四年度	五年度
一	一回施用	砂莖糖量	五、四二七 五、四一〇	八、〇六五 八、二二五	三、八〇〇 三、五〇〇	七、〇四四 八、一七一	六、六四八 六、八四八
二	二回分施	砂莖糖量				七、六三三 七、七九三	六、六一〇 六、六六一

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	自元五年五ヶ年	位次	自三年三ヶ年	位次
一	一回施用	砂莖糖量	一、一	三	三	三
二	二回分施	砂莖糖量	六、三三三 六、三三三 六、三三三	一	一	一
三	三回分施	砂莖糖量	六、六一三 六、六一三 六、六一三	一	一	一
四	四回分施	砂莖糖量	五、四八〇 五、四八〇 五、四八〇	三	四	四

(五) 結論

今大正元年度ヨリ大正五年度ニ至ル成績ニ依リ之レガ順位ヲ調ブルニ

年次	第一位	第二位	第三位
大正元年度	二回分施	三回分施	四回分施
全正元年度	二回分施	三回分施	四回分施

右累年ノ成績ヨリ之レヲ案スルニ三回分施肥區最モ成績良好ニシテ二回分施肥區之レニ次グルヲ見ル
尙平均成績ヲ見ルニ

平均年數	第一位	第二位
五ヶ年平均 (自大正元年 至大正五年)	三回分施肥區	二回分施肥區
三ヶ年平均 (自大正三年 至大正五年)	三回分施肥區	二回分施肥區

右ノ如ク五ヶ年平均ニ於テモ三ヶ年平均ニ於テモ三回分施肥區第一位ニアリテ二回分施肥區之レニ亞ケリ而シテ四回ニ分施スル時ハ成績最モ不良トナルサレバ大豆粕ノ分施ハ三回ヲ越ユル時ハ却テ効力ヲ減少スルモノトス
△要之「大豆粕ヲ施用スル場合ニハ三回ニ分チテ與フルヲ最モ宜シトス然シ乍ラ勞力ノ不足ナル場合ニハ經濟上ヨリモ考慮シテ二回ニ分施スルヲ可シトスベシ兎ニ角之レヲ一回ニ與フルヨリモ二回乃至三回ニ分施スルヲ以テ良好ナル結果ヲ得ルモノトス」

十九、綠肥用間作大豆試驗

(一) 目的

本試驗ハ大正元年度ヨリ大正五年度ニ至リ繼續施行セルモノニシテ其目的ハ甘蔗ノ畦間ハ大豆ヲ播種シ綠肥トナスニハ其ノ播種期及播種量ヲ如何ニスベキヤヲ知ラントスルニアリ

(二) 設計

大豆ノ播種期ヲ二月、三月、四月ノ三期トシ各期播種量ヲ四升、五升、六升トセリ何レモ堆肥ヲ原肥トス

區名	試驗別	元年度	二年度	三年度	四年度	五年度
一	二月播四升區	四、六五五斤	六、五五六斤	六、〇四四斤	三、〇〇〇斤	七、二九六斤
二	二月播五升區	三、九八一	六、八二二	五、二六六	二、七八	五、八三三
三	二月播六升區	五、〇五〇	五、九四七	六、〇〇〇	二、七六七	六、八六七
四	三月播四升區	四、四九八	七、三三〇	五、〇〇五	四、一〇七	五、八七五
五	三月播五升區	三、八二九	七、三六〇	四、四四四	四、一〇七	五、八七五
六	三月播六升區	三、三二二	七、二二九	四、四四四	四、一〇七	五、八七五
七	四月播四升區	四、四九八	七、三三〇	四、四四四	四、一〇七	五、八七五
八	四月播五升區	三、八二九	七、三六〇	四、四四四	四、一〇七	五、八七五
九	四月播六升區	三、三二二	七、二二九	四、四四四	四、一〇七	五、八七五
十	普通區 (間作セス)					

(三) 累年成績
累年成績左ノ如シ

區名	試驗別	元年度	二年度	三年度	四年度	五年度
一	二月播四升區	四、六五五斤	六、五五六斤	六、〇四四斤	三、〇〇〇斤	七、二九六斤
二	二月播五升區	三、九八一	六、八二二	五、二六六	二、七八	五、八三三
三	二月播六升區	五、〇五〇	五、九四七	六、〇〇〇	二、七六七	六、八六七
四	三月播四升區	四、四九八	七、三三〇	五、〇〇五	四、一〇七	五、八七五
五	三月播五升區	三、八二九	七、三六〇	四、四四四	四、一〇七	五、八七五
六	三月播六升區	三、三二二	七、二二九	四、四四四	四、一〇七	五、八七五

五	六	七	八	九	十
三月播五升區	三月播六升區	四月播四升區	四月播五升區	四月播六升區	普通區
砂莖	砂莖	砂莖	砂莖	砂莖	砂莖
糖量	糖量	糖量	糖量	糖量	糖量
四、五二二	三、二四四	四、三六一	五、一八〇	三、三三〇	三、一五〇
六、五〇二	七、六〇二	六、九〇三	六、八四七	六、一〇四	六、八六二
四、九四〇	五、〇七五	四、九八五	六、五〇〇	四、八三八	五、三六五
三、三三三	四、二八三	四、六八三	三、五三三	五、〇〇〇	四、九六〇
五、一三一	五、四三八	六、三三三	四、九七一	五、〇六三	六、六八三

(四) 平均成績

累年成績ニ基キ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

區名	試驗別	反當	自至二年四年	位次
一	二月播四升區	砂莖糖量	五、七二四	六
二	二月播五升區	砂莖糖量	五、四〇五	九
三	二月播六升區	砂莖糖量	五、七三九	四
四	三月播四升區	砂莖糖量	五、六八九	五
五	三月播五升區	砂莖糖量	四、九九九	十

六	七	八	九	十
三月播六升區	四月播四升區	四月播五升區	四月播六升區	普通區
砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量	砂莖糖量
五、六〇〇	五、七二六	五、四六七	五、二七六	五、九六八
二	三	七	八	一

(五) 結論

右ノ如ク大正二年ヨリ四ケ年ノ平均成績ニ依リテ之レヲ案スルニ普通區即チ間作セザルモノ最モ良好ニシテ三月播六升區之レニ次ギ四月播四升區之レニ亞ゲリ
 以上ノ平均成績ニ於テハ普通區最モ良好ナリト雖モ間作區トノ差僅カニシテ又年々ノ成績ヲ見ルニ間作セルモノ良好ナル場合モアリ之レガ原因ニ就イテ考フルニ種々アランガ綠肥刈取期ノ遅速ハ最モ影響アルモノニシテ甘蔗ノ幼時代ニ於テ綠肥繁茂スレバ之レニ依リテ甘蔗ノ生育ヲ妨害スル事少ナカラズ肥料トシテノ効力ヨリモ甘蔗ノ生育ヲ害スル事ノ方遙カ大ナル場合ニハ其結果不良トナルベシ故ニ綠肥刈取期ニ依リテ其成績モ一樣ニ非ラザルベシ種々ノ注意ガ行届ク時ニ於テ間作綠肥ハ必ず有効ナルモノナルベシ殊ニ堆肥材料ノ乏シキ處ニ於テハ綠肥ニ依ラザル可カラズ又土地ノ狹隘ナル處ニ於テハ間作綠肥ニ依ルノ外途ナカルベシ
 故ニ左記ノ條件ニ充分注意スレバ間作スルモ敢テ差支ナカルベシ
 一、畦幅ヲ三尺乃至三尺五寸トスルコト

- 二、蒔付時期ハ三月中若クハ四月上旬迄トス
 - 三、反當播種量ハ五升乃至六升トス
 - 四、綠肥ノ生育ガ甘蔗ノ生育ヲ凌駕セザル前ニ必ズ拔キ取りテ直チニ畦間ニ鋤キ込ムコト
- △要之。『堆肥及完全肥料ヲ用フル處ニ於テハ敢テ綠肥ヲ間作スルノ必要ナシト雖モ堆肥ヲ綠肥ニ代ユル場合又堆肥ノ無キ處ニ於テハ間作スルモ妨ゲナシ但シ前記ノ事項ニ就キテハ充分ノ注意ヲ要スルモノナリ』

第四 製糖試驗之部

砂糖製造法梗概

- 一、製糖竈
 - 一、石 灰
 - 一、石灰ノ加入期 高知縣産ノ上等生石灰ヲ「ブリツクス」二十度ノ石灰乳トナシタルモノヲ用フ
 - 一、石灰ノ使用量 生汁ニ大部汚物除去後ニ一部ヲ加フ
 - 一、汚物除去 甘蔗ニヨリ一定セズ普通搾汁一石ニ付一合五勺乃至五合ニシテ汚物除去後微アルカリ性ヲ適度トス
 - 一、取上溫度 煎煮鍋ニ於テ汁液攝氏九十五、六度ニ昇リシ時水納ニテ汚物ヲ除去ス
 - 一、取上後ノ操作 甘蔗品質ニヨリ一定セズ普通攝氏一二二度乃至一二八度ニシテ下等甘蔗ハ低ク上等甘蔗ハ高ク取上グルモノトス
- 二、赤糖ノ部
 - 一、製糖竈
 - 一、石 灰
 - 一、石灰ノ加入期 高知縣産ノ上等生石灰ヲ「ブリツクス」二十度ノ石灰乳トナシタルモノヲ用フ
 - 一、石灰ノ使用量 生汁ニテ中和量内外汚物除去後清澄槽内ニテ能ク澄ム様ニ幾部ヲ加ヘ尙ホ清澄後少量注加シテ微アルカリ性トス
 - 一、汚物除去 黒糖ト大差ナシ
 - 一、取上溫度 煎煮鍋ニ於テ汁液攝氏九十五、六度ニ昇リシ時水納ニテ汚物ヲ掬ヒ去リ更ニ吐口ヲ設ケタル繼輪ニ蓋ヲナシテ汚物ヲ吐口ヨリ吐カシ尙ホ清澄槽ニ移シテ殘餘ノ汚物ヲ除去ス
 - 一、取上後ノ操作 甘蔗ノ品質ニヨリ一定セズ普通攝氏一二二度乃至一二八度トス

三、白糖ノ部

- 一、石 灰
 - 一、石灰ノ加入期 高知縣産ノ上等生石灰ヲ「ブリツクス」二十度ノ石灰乳トナシタルモノヲ用フ
 - 一、石灰ノ使用量 生汁ニ中和量内外、汚物除去後清澄槽内ニテ能ク澄ム様ニ加フモノトス
 - 一、汚物除去 甘蔗ノ品質ニヨリ一定セズ黒糖赤糖ヨリハ稍々少量ニシテ汚物除去後中性ヲ適度トス
 - 一、取上溫度 煎煮鍋ニ於テ汁液攝氏九十五、六度ニ昇リシ時水納ニテ汚物ヲ掬ヒ去リ更ニ吐口ヲ設ケタル繼輪ニ蓋ヲナシテ汚物ヲ吐口ヨリ吐カシ尙ホ清澄槽ニ移シテ殘餘ノ汚物ヲ除去ス
 - 一、取上後ノ操作 甘蔗ノ品質ニヨリ一定セズ普通攝氏一一九度乃至一二二度トス
- 一、製糖竈
 - 一、石 灰
 - 一、石灰ノ加入期 高知縣産ノ上等生石灰ヲ「ブリツクス」二十度ノ石灰乳トナシタルモノヲ用フ
 - 一、石灰ノ使用量 生汁ニ中和量内外、汚物除去後清澄槽内ニテ能ク澄ム様ニ加フモノトス
 - 一、汚物除去 甘蔗ノ品質ニヨリ一定セズ黒糖赤糖ヨリハ稍々少量ニシテ汚物除去後中性ヲ適度トス
 - 一、取上溫度 煎煮鍋ニ於テ汁液攝氏九十五、六度ニ昇リシ時水納ニテ汚物ヲ掬ヒ去リ更ニ吐口ヲ設ケタル繼輪ニ蓋ヲナシテ汚物ヲ吐口ヨリ吐カシ尙ホ清澄槽ニ移シテ殘餘ノ汚物ヲ除去ス
 - 一、取上後ノ操作 素燒ノ壺或ハ攪拌鍋ニ入レテ黒糖ヨリハ稍々弱ク攪拌冷却ス
- 一、壓搾器ノ大小比較試驗
 - 一、目的 本試驗ハ明治四十一年ヨリ大正元年迄施行セルモノニシテ其目的ハ畜力壓搾器ノ大小ニヨリ壓搾工程、搾汁歩合等ニ如何程ノ相違アルヤヲ知ラントスルニアリ
 - 二、方法 原動力ニハ牛各一頭ヲ使役シ力ノ平均ヲ得セシムル爲メ三十分毎ニ牛ヲ取り交ヘタリ

原料ハ收穫後能ク混和シタル後秤量セリ

三、成績

明治四十一年度

壓搾器ノ別	壓搾回数	一分間回轉數	蔗莖	
			時間	搾汁容量
直徑五寸四分	二回		三〇分	二〇、六斤
直徑一尺二分	二回		四五分	一九、九斤
長三寸八分				六三、六斤

明治四十二年度缺ク

明治四十三年度

壓搾器ノ別	壓搾回数	一分間回轉數	蔗莖	
			時間	搾汁容量
直徑五寸四分	二回		五五分	二〇、五斤
直徑一尺二分	二回		九分	二〇、四斤
長三寸八分				六四、九斤

大正元年度

壓搾器ノ別	壓搾回数	一分間回轉數	蔗莖	
			時間	搾汁容量
直徑五寸四分	二回		五五分	二〇、五斤
直徑一尺二分	二回		九分	二〇、四斤
長三寸八分				六四、九斤

直徑	長	壓搾器ノ別	壓搾回数	一分間回轉數	蔗莖	
					時間	搾汁容量
五寸四分	一尺二分	二	二回	一、八五	五七分	二〇、四斤
五寸四分	一尺二分	二	二回	一、八五	五七分	二〇、四斤
三寸八分	一尺二分	二	二回	一、八七	七六分	二〇、二斤

以上三ヶ年ノ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

直徑	長	壓搾器ノ別	壓搾回数	一分間回轉數	蔗莖	
					時間	搾汁容量
五寸四分	一尺二分	二	二回	一、八五	五七分	二〇、四斤
五寸四分	一尺二分	二	二回	一、八五	五七分	二〇、四斤
三寸八分	一尺二分	二	二回	一、八七	七六分	二〇、二斤

(四) 結論

前表ニヨリ之レヲ案スルニ直徑二尺ノ方直徑一尺二寸ノモノヨリモ壓搾時間ニ於テ三割八分早ク搾汁歩留ニ於テモ優ルコト明ラカナリ

要之『甘蔗ノ壓搾器ハ一尺二寸ノ小車ヲ用フルヨリモ一尺六寸以上ノ大車ヲ用フルヲ得策トス』

二、壓搾器原動力ノ比較試驗

一、目的 本試驗ハ明治四十一年ヨリ大正元年迄施行セルモノニシテ其目的ハ畜力壓搾器ト水力壓搾器ノ仕事ノ工程搾汁歩合等ヲ比較研究セントスルニアリ

二、方法 畜力壓搾器(鉄製三本「ローラー」直徑二尺長五寸四分)ニ牡牛一頭ヲ使役シ水力壓搾器(鉄製三本「ローラー」横置式直徑一尺二寸長一尺二寸)ハ本場備付ノ水車ヲ用ヒタリ

原料ハ收穫後能ク混和シタル後秤量セリ

三、成績

明治四十一年度

原動力別	牛	水	原動力別	牛	水
	車	車		車	車
壓搾回数	二	二	壓搾回数	二	二
一分間回轉數			一分間回轉數	1	1
蔗莖			蔗莖		
壓搾時間	13分	30分	壓搾時間	13分	30分
搾汁容量	187斤	200斤	搾汁容量	187斤	200斤
搾汁重量	60.0斤	66.0斤	搾汁重量	60.0斤	66.0斤

明治四十三年度

原動力別	牛	水	原動力別	牛	水
	車	車		車	車
壓搾回数	二	二	壓搾回数	二	二
一分間回轉數			一分間回轉數	1.8	2.8
蔗莖			蔗莖		
壓搾時間	22分	26分	壓搾時間	22分	26分
搾汁容量	187斤	200斤	搾汁容量	187斤	200斤
搾汁重量	58.9斤	65.8斤	搾汁重量	58.9斤	65.8斤

明治四十四年度

原動力別	牛	水	原動力別	牛	水
	車	車		車	車
壓搾回数	二	二	壓搾回数	二	二
一分間回轉數			一分間回轉數	2.4	3.4
蔗莖			蔗莖		
壓搾時間	12分	19分	壓搾時間	12分	19分
搾汁容量	164斤	194斤	搾汁容量	164斤	194斤
搾汁重量	52.5斤	62.1斤	搾汁重量	52.5斤	62.1斤

大正元年度

原動力別	牛	水	原動力別	牛	水
	車	車		車	車
壓搾回数	二	二	壓搾回数	二	二
一分間回轉數			一分間回轉數	1.0	1.9
蔗莖			蔗莖		
壓搾時間	15分	57分	壓搾時間	15分	57分
搾汁容量	170斤	204斤	搾汁容量	170斤	204斤
搾汁重量	52.7斤	63.2斤	搾汁重量	52.7斤	63.2斤

以上ノ四ケ年平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

四、結論

前表ニヨリテ之レヲ案ズルニ作業ノ工程ニ於テハ水力ノ方畜力ニ約三、三倍シ搾汁歩合ニ於テハ畜力ノ方水力ノ方ヨリ蔗莖百斤ニ付搾汁八、三斤優ルヲ見ル
要之「搾汁歩合ニ於テハ畜力ヲ勝レリトスルモ作業ノ工程ニ於テハ水力ノ方遙カニ勝レルヲ見ル尙之レヲ經濟上ヨリ考フルモ水力ノ方利益アルヲ以テ水利アル處ニ於テハ水力ヲ用ユルヲ宜シトス」

三、燃料試驗

一、目的 本試驗ハ明治四十三年ヨリ大正五年迄施行セルモノニシテ其目的ハ黑糖製造用燃料トシテ薪、柴、甘蔗搾殻及ビ甘蔗枯葉等ノ價值ヲ知ラントスルニアリ
二、方法 一定量ノ蔗汁ヲ以テ黑糖ヲ製造スルニ要スル薪、柴、搾殻及枯葉ノ量並ニ各々於ケル煎煮時間ヲ比較調査ス

三、成績 (但シ竈ハ薪用ノ目的ニテ拵ヘタル三連竈ヲ用ヒタリ)
明治四十三年度

燃料種類	要量		要時間	
	蔗莖百斤ニ付	煎煮時間	搾汁一斗ニ付	煎煮時間
蔗莖	三五、七	三三、三	一九、〇	一八、八
蔗葉	三四、六	三五、三	一九、九	二〇、〇
蔗殼	三八、九	三二、二	二二、七	二五、〇
燃料種類	要量		要時間	
蔗莖	三四、〇	三三、三	二〇、〇	二二、二
蔗葉	三二、〇	一八、〇	一八、〇	一八、〇
蔗殼	三七、〇	二二、〇	二二、〇	二二、〇
燃料種類	要量		要時間	
蔗莖	二五、〇	二五、〇	一五、五	一七、二
蔗葉	二七、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇
蔗殼	二五、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇
燃料種類	要量		要時間	
蔗莖	二八、六	二八、六	一六、五	一七、二
蔗葉	二〇、六	一七、〇	一七、〇	一七、〇
蔗殼	二五、〇	二六、〇	二六、〇	二六、〇

大正二年度

燃料種類	要量		要時間	
	蔗莖百斤ニ付	煎煮時間	搾汁一斗ニ付	煎煮時間
蔗莖	二九、一	二六、六	一七、三	一六、六
蔗葉	四三、四	二七、〇	二六、〇	一五、一
蔗殼	四一、五	三三、三	二五、〇	一五、一
燃料種類	要量		要時間	
蔗莖	二八、六	二八、六	一六、五	一七、二
蔗葉	二〇、六	一七、〇	一七、〇	一七、〇
蔗殼	二五、〇	二六、〇	二六、〇	二六、〇
燃料種類	要量		要時間	
蔗莖	二七、九	二八、二	一五、二	一五、一
蔗葉	三〇、六	二四、〇	二四、〇	二〇、〇
蔗殼	三二、五	二八、二	二八、二	二〇、〇
燃料種類	要量		要時間	
蔗莖	二七、二	二七、二	一五、五	一七、二
蔗葉	二〇、六	一七、〇	一七、〇	一七、〇
蔗殼	二五、〇	二六、〇	二六、〇	二六、〇

燃料種類	蔗莖百斤ニ付		搾汁一斗ニ付		砂糖十斤ニ付	
	要量	煎煮時間	要量	煎煮時間	要量	煎煮時間
薪	二九、八	二七、〇	一五、五	一四、〇	三三、四	三〇、〇
柴	三七、五	三一、〇	二〇、八	一七、〇	四二、五	三三、〇
蔗枯	三七、〇	二九、〇	一八、八	一五、〇	三八、三	三〇、〇
蔗葉	四二、三	三三、〇	二二、四	一九、〇	四七、七	三九、〇

以上ノ七ケ年平均成績ヲ示シバ左ノ如シ

四、結論

要之「製糖用燃料トシテハ薪、柴ヲ可トスルモ之等燃料ノ不足ノ地方ニテハ搾殻、蔗枯葉ヲ用フルモ差支ナシ」

四、石灰加用試験

一、目的

本試験ハ明治四十一年度ヨリ大正五年度迄施行セルモノニシテ目的ハ黑糖製造上石灰加用ノ適量ヲ研究セントス

ルニアリ

二、方法

中和ニ要スル石灰乳量ヲ測定シ更ニ種々ノ割合ヲ以テ中和以上ニ石灰乳ヲ増加シ適當ナル温度(但シ原料ノ品質ニ就イテ豫定スルモノトス)ニ於テ取上ゲ冷却後品質ヲ比較ス

三、成績

明治四十一年度

供試種類	ブリツクス	中和ニ要セシ石灰乳量	石灰使用量	中和ニ對スル使用量増加歩合	砂糖品位	適量
喜界島	一七、五	四、五〇	六、〇〇	三、三	二步半	六割増
全	一七、五	二、五〇	四、〇〇	六、〇	三歩	六割七分増
全	一七、五	三、〇〇	五、〇〇	六、七	三歩半	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	二、五	二歩半	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	六、七	三歩	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	六、七	二歩半	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	六、七	二歩半	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	六、七	二歩半	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	六、七	二歩半	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	六、七	二歩半	六割七分増
全	一八、〇	三、〇〇	五、〇〇	六、七	二歩半	六割七分増
全	一八、五	二、五〇	四、〇〇	六、〇	三歩	六割七分増
全	一八、五	三、〇〇	五、〇〇	六、七	二歩半	六割七分増

大正三年度						
供試	種	類	山	谷	全	全
ブリツクス	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500
中和ニ要セ 石灰乳量	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
石灰使用量	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
中和ニ對スル使 用量増加歩合	100	100	100	100	100	100
砂糖品位	11	11	11	11	11	11
適量	九割五分増					
	七割増					

大正三年度																				
ブリツクス	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500	
中和ニ要セ 石灰乳量	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	
石灰使用量	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	
中和ニ對スル使 用量増加歩合	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
砂糖品位	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	
適量	七割増										八割増									

供試 類蔗	大正五年度	大島	一七、七	一、五〇	二、五五	七、〇	一	十八	適量
		喜界	一八、二	〇、九〇	一、八〇	一〇、〇	二	十八	割増
		全島	一九、〇	〇、九〇	一、六三	八、〇	二	十八	割増
		全島	二〇、〇	〇、九〇	一、八〇	一〇、〇	二	十八	割増
		全島	二〇、〇	一、三〇	二、四七	九、〇	二	十八	割増
		全島	一九、六	二、三〇	三、六八	六、〇	二	十八	割増
		全島	一九、五	一、四〇	二、七三	九、五	二	十八	割増
		全島	一九、五	一、六〇	二、八八	八、〇	二	十八	割増
		全島	一九、三	一、一〇	二、二〇	一〇、〇	二	十八	割増
		全島	一九、三	一、三〇	二、四四	八、〇	二	十八	割増
全島	一九、二	一、六〇	二、八八	八、〇	二	十八	割増		
全島	一九、二	一、五〇	二、五五	七、〇	二	十八	割増		
全島	一九、一	二、二〇	三、七二	五、五	二	十八	割増		
全島	一九、〇	二、〇〇	三、七四	七、〇	二	十八	割増		
全島	一九、〇	一、五〇	三、七〇	八、〇	二	十八	割増		
全島	一九、〇	一、〇〇	三、二〇	一〇、〇	二	十八	割増		
全島	一九、〇	一、六〇	二、九六	八、五	二	十八	割増		
全島	一八、八	〇、八〇	一、六〇	一〇、〇	二	十八	割増		
全島	一八、六	一、九〇	三、〇四	六、〇	二	十八	割増		
全島	一八、五	一、六〇	二、八八	八、〇	二	十八	割増		

全島	一八、五	一、〇	二、二〇	一〇、〇	二	十八	適量
全島	一八、五	二、三〇	三、四三	五、〇	二	十八	割増
全島	一八、五	一、八〇	三、二四	六、〇	二	十八	割増
全島	一八、三	二、〇〇	三、〇〇	六、〇	二	十八	割増
全島	一八、二	一、二〇	二、五二	一、〇	二	十八	割増
全島	一八、二	一、四〇	二、四〇	一〇、〇	二	十八	割増
全島	一八、〇	一、三〇	二、六〇	七、〇	二	十八	割増
全島	一七、七	一、九〇	三、一三	六、五	二	十八	割増
全島	一七、七	二、〇〇	三、一六	八、〇	二	十八	割増
全島	一七、五	一、五〇	二、七〇	八、〇	二	十八	割増
全島	一七、五	一、五〇	二、七〇	九、〇	二	十八	割増
全島	一七、三	一、〇	一、八九	一、〇	二	十八	割増
全島	一七、二	三、〇〇	四、三五	四、五	二	十八	割増
全島	一七、二	一、五〇	二、七〇	八、〇	二	十八	割増
全島	一七、〇	〇、六〇	一、四七	九、〇	二	十八	割増
全島	一六、八	二、〇〇	三、四〇	七、〇	二	十八	割増
全島	一六、八	一、六〇	二、八八	八、〇	二	十八	割増
全島	一六、五	一、六〇	二、八八	六、〇	二	十八	割増
全島	一六、三	二、一〇	三、三六	八、〇	二	十八	割増
全島	一六、二	二、二〇	三、九六	八、〇	二	十八	割増
全島	一六、〇	二、四〇	三、八四	六、〇	二	十八	割増
全島	一六、〇	二、八〇	四、二〇	五、〇	二	十八	割増
全島	一六、〇	三、〇〇	四、五〇	五、〇	二	十八	割増

加入シテ製造シタルモノトニ就キ製品ノ品質ヲ比較ス
三、成績

明治四十三年度

試験別	供試類	ブリツクス	中和ニ要セシ石灰乳量	石灰使用量	中和ニ對スル使用量増加歩合	砂糖品位
生汁ニ全量加入	喜界島	一七、〇	二、三	三、〇	三、〇	二歩
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	一歩半
生汁ニ全量加入	大島在來	一六、五	三、〇	四、八	六、〇	二歩
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	二歩
生汁ニ全量加入	讀谷山	一六、五	四、三	六、九	六、〇	二歩半
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	一歩半

試験別	供試類	ブリツクス	中和ニ要セシ石灰乳量	石灰使用量	中和ニ對スル使用量増加歩合	砂糖品位
生汁ニ全量加入	讀谷山	一五、二	一、八〇	三、〇	七、〇	一歩半上
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	一歩半
生汁ニ全量加入	大島在來	一四、七	二、六〇	四、一〇	五、〇	一歩半
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	一歩半

大正三年度

試験別	供試類	ブリツクス	中和ニ要セシ石灰乳量	石灰使用量	中和ニ對スル使用量増加歩合	砂糖品位
生汁ニ全量加入	讀谷山	一九、〇	二、九〇	四、三	五、〇	二歩上
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	二歩

試験別	供試類	ブリツクス	中和ニ要セシ石灰乳量	石灰使用量	中和ニ對スル使用量増加歩合	砂糖品位
生汁ニ全量加入	讀谷山	一七、〇	〇、九〇	一、七	九、〇	一歩半
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	一歩半
生汁ニ全量添加	全	一九、〇	〇、六〇	一、三	一三、〇	二歩半
生汁ニ中和量加入汚物除去後殘部添加	全	全	全	全	全	二歩

四、結論

以上四ヶ年ノ試験成績ニヨリテ之レヲ案スルニ生汁ニ石灰要量一部ヲ加ヘテ加熱汚物除去後殘部ヲ添加スルヨリモ生汁ニ要量全量ヲ加入スルモノヲ可トス
要之「石灰ヲ加入スベキ時期ハ生汁ニ要量全量ヲ加入スルカ或ハ要量ノ大部分ヲ生汁ニ加ヘテ加熱汚物除去後不足ヲ添加スルヲ可トス」

六、油加用試験

一、目的

本試験ハ大正三年度ヨリ全四年度迄施行セルモノニシテ其目的ハ黒糖及赤糖ノ製造上油加用ノ効驗及其適當ナル

加入期ヲ知ラントスルニアリ

二、方法

全一原料ヲ用ヒ一〇五度乃至一二三度ニ至ル温度ニ於テ胡麻油ヲ加用シテ製造シ一方ハ胡麻油ヲ加用セズシテ製造シ其製品ノ品質ヲ比較ス

(イ) 黒糖ノ成績ヲ表示スレバ左ノ如シ

大正三年度

試験別	供試蔗種類	ブリツクス	砂糖品位	摘	要
一〇五度ニテ胡麻油加用	讀谷山	一六、〇	一步半	一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	一七、〇	一步半	一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	一五、〇	一步半	一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル	

一〇七度ニテ胡麻油加用 讀谷山 一六、五 一步半 一二四度位ヨリ稍々膨レ上ル

(ロ) 赤糖ノ成績ヲ表示スレバ左ノ如シ

大正三年度

試験別	供試蔗種類	ブリツクス	砂糖品位	摘	要
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	一八、〇	一步半	一二三度位ヨリ焦付テ温度上ゲ難シ	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	一九、〇	一步半	一二三度位ヨリ焦付テ温度上ゲ難シ	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	一九、〇	一步半	一二三度位ヨリ焦付テ温度上ゲ難シ	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二三度位ヨリ焦付テ温度上ゲ難シ	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二三度位ヨリ焦付テ温度上ゲ難シ	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二三度位ヨリ焦付テ温度上ゲ難シ	
一〇七度ニテ胡麻油加用	讀谷山	全	一步半	一二三度位ヨリ焦付テ温度上ゲ難シ	

四、結論

以上二ヶ年ノ試験成績ニヨリテ之レヲ案ズルニ黒糖製造ニ於テハ油加用ハ油不加用ニ比シ砂糖品位稍々可ナレドモ赤糖製造ニ於テハ百十度内外ノ温度ニテ胡麻油ヲ五六滴加用シタルモノハ油不加用ニ比シ砂糖品位著シク良好ナリトス
要之「未熟下等ノ甘蔗ヲ以テ黒糖ヲ製造スル場合及ビ赤糖ヲ製造スル場合ニハ糖液温度百十度内外ノ時期ニ胡麻油五六滴注加スルヲ可トス」

七、取上温度試験

一、目的

本試験ハ明治四十二年度ヨリ大正五年度迄施行セルモノニシテ其目的ハ黒糖、赤糖及樽入白下糖製造ニ於ケル取上温度ヲ知ラントスルニアリ

二、方法

黒糖ニ於テハ全一原料ヲ用ヒ一八九度乃至一三〇度ニテ取上テ攪拌冷却シタル後品質ヲ比較ス
赤糖ハ一三〇度乃至一三〇度分蜜用白下糖ハ一〇一度乃至一一六度樽入白下糖ハ一一八度乃至一二三度ニ至ル温度ニ於テ取上テ攪拌冷却シタル後品質ヲ比較ス

(イ) 黒糖ノ成績ヲ表示スレバ左ノ如シ

明治四十二年度

取上温度	一一一度	一二二度	一二三度	一二四度	一二五度	一二六度	一二七度
ブリツクス	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、五	一七、五	一八、〇	

取上温度	一一一度	一二二度	一二三度	一二四度	一二五度	一二六度	一二七度
ブリツクス	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、五	一七、五	一八、〇	

明治四十三年度

ブリツクス	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、五	一七、五	一八、〇
加用量	八割増	六割増	十割増	四割増	十割増	十割増
取上	一歩	一歩	一歩	一歩	一歩	一歩
度	二七度	二七度	二七度	二七度	二七度	二七度
摘要	二七度ヨリ粘質ヲ帯ブ	二七度ヨリ粘質ヲ帯ブ	二七度ヨリ粘質ヲ帯ブ	二七度ヨリ粘質ヲ帯ブ	二七度ヨリ粘質ヲ帯ブ	二七度ヨリ粘質ヲ帯ブ

大正四年度

ブリツクス 加用量	取		上		温		度		摘	要
	製造時	梅雨後	製造時	梅雨後	製造時	梅雨後	製造時	梅雨後		
一八、二七割増	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	一步半
二〇、〇十割増	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	一步半
一九、三十割増	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	一步半

大正五年度

ブリツクス 加用量	取		上		温		度		摘	要
	製造時	梅雨後	製造時	梅雨後	製造時	梅雨後	製造時	梅雨後		
一八、二七割増	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	一步半
一七、〇九割増	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	二步	一步半	一步半

△以上八ヶ年ノ試験成績ニヨリ之レヲ案ズルニ良好ナル甘蔗ヲ原料トセル場合ノ黒糖ノ取上適温ハ一二五度乃至一二七度未熟下等ノ甘蔗ノ場合ハ一二〇度乃至一二二度中等甘蔗ノ場合ハ一二四度乃至一二五度適温ナルヲ認ム
(ロ)分蜜用白下糖ノ成績ヲ表示スレバ左ノ如シ

大正二年度

ブリツクス	石灰加用量	取	上	温	度	摘	要
一八、二	四割増	下	上	中	下	一一三度最適ニシテ一二五度之ニ次グ	

前表ニ據レバ分蜜用白下糖ハ百十三度乃至百十四度ヲ最適トス
樽入白下糖ノ成績ヲ表示スレバ左ノ如シ

大正三年度

ブリツクス	石灰加用量	取	上	温	度	摘	要
一七、七	五割増	下	中	上	上	一一二度最モ良好ニシテ一二〇度之ニ次グ	

大正四年度

ブリツクス	石灰加用量	取	上	温	度	摘	要
一七、〇	六割増	下	中	上	上	一一二度最モ良好ニシテ一一〇度之ニ次グ	

大正五年度

ブリツクス	石灰加用量	取	上	温	度	摘	要
一六、〇	六割増	中	中	上	中	一一二度最モ良好ニシテ一一二度之ニ次グ	

△以上八ヶ年ノ試験成績ニヨリ之レヲ案ズルニ白下糖ノ取上温度ハ一二〇度乃至一二二度ヲ最適トス
(ハ)赤糖ノ成績ヲ表示スレバ左ノ如シ

大正二年度		大正三年度		大正四年度	
ブリツクス	石灰加用量	ブリツクス	石灰加用量	ブリツクス	石灰加用量
一八、二六割増	取	一七、五九割増	取	一九、五六割増	取
下	上	下	上	下	上
中	中	中	中	中	中
中	中	中	中	中	中
上	上	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上
一二〇度	一二二度	一二三度	一二五度	一二六度	一二七度
一二四度	一二六度	一二七度	一二八度	一二九度	一三〇度
一二六度	一二七度	一二七度	一二八度	一二八度	一二八度
一二六度最モ良好ニシテ一二四度之ニ次グ	摘	一二六度最モ良好ニシテ一二七度之ニ次グ	摘	一二七度最モ良好ニシテ一二五度之ニ次グ	摘
要		要		要	

以上三ヶ年ノ試験成績ニヨリ之レヲ案スルニ赤糖ノ取上温度ハ一二六度乃至一二八度ヲ適温トス

四、結論

要之「黒糖ノ取上温度ハ上等蔗ノ場合ハ百二十五度乃至百二十七度、中等蔗ノ場合ハ百二十四度乃至百二十五度、下等蔗ノ場合ハ百二十度乃至百二十二度ヲ適温トナス

白下糖ノ取上温度ハ百二十度乃至百二十二度ヲ適温トナス

赤糖ノ取上温度ハ百二十六度乃至百二十八度ヲ適温トナス」

八、黒糖赤糖白下糖ノ經濟比較試験

一、目的

本試験ハ大正元年度ヨリ大正四年度迄施行セルモノニシテ其目的ハ大島郡ニ於テ専ラ製造セラル、黒糖ト赤糖又ハ白下糖ヲ製造スルトハ何レガ有利ナルヤヲ知ラントスルニアリ

一、方法

全一原料ヲ以テ黒糖、赤糖、白下糖ヲ製造シ各ニ要スル生産費並ニ各製糖歩留、品位等ヲ調査シ市價ニ照シテ何レガ有利ナルヤヲ比較ス

三、成績

供試蔗讀谷山以下同斷

大正元年度		大正二年度		大正三年度		大正四年度	
種砂	類糖	種砂	類糖	種砂	類糖	種砂	類糖
黒糖	全	黒糖	全	黒糖	全	黒糖	全
白糖	全	白糖	全	白糖	全	白糖	全
赤糖	全	赤糖	全	赤糖	全	赤糖	全
蔗莖量	時煎	蔗莖量	時煎	蔗莖量	時煎	蔗莖量	時煎
五〇〇、〇	二四一	五〇〇、〇	二四一	五〇〇、〇	二四一	五〇〇、〇	二四一
消費量	燃料	消費量	燃料	消費量	燃料	消費量	燃料
一四九、〇	一四九、〇	一四九、〇	一四九、〇	一四九、〇	一四九、〇	一四九、〇	一四九、〇
製糖量	歩留	製糖量	歩留	製糖量	歩留	製糖量	歩留
五〇〇、〇	一〇、〇	五〇〇、〇	一〇、〇	五〇〇、〇	一〇、〇	五〇〇、〇	一〇、〇
代砂	代金	代砂	代金	代砂	代金	代砂	代金
五、三二五	二、〇〇〇	五、三二五	二、〇〇〇	五、三二五	二、〇〇〇	五、三二五	二、〇〇〇
製糖費	消費稅	製糖費	消費稅	製糖費	消費稅	製糖費	消費稅
一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
運賃其他	純益	運賃其他	純益	運賃其他	純益	運賃其他	純益
一、七五〇	〇、七九五	一、七五〇	〇、七九五	一、七五〇	〇、七九五	一、七五〇	〇、七九五
損	順位	損	順位	損	順位	損	順位
〇、一九〇	二	〇、一九〇	二	〇、一九〇	二	〇、一九〇	二
〇、一六五	三	〇、一六五	三	〇、一六五	三	〇、一六五	三

大正三年度

種糖類	蔗莖量	煎煮時間	燃料消費量	製糖量	歩留	代砂金糖	代原料金料	製糖費	消費稅	運費其他	純益	順位
黒糖	500.0	2,36	160.0	48.0	9.6	456	2,000	1,070	1,440	0	0.50	1
白糖	全	3,36	175.0	77.0	9.4	700	全	1,387	1,645	損	0.33	3
赤糖	全	3,46	176.0	43.0	8.6	730	全	1,092	1,591	損	0.07	2

大正四年度

種糖類	蔗莖量	煎煮時間	燃料消費量	製糖量	歩留	代砂金糖	代原料金料	製糖費	消費稅	運費其他	純益	順位
黒糖	500.0	2,25	136.0	46.5	9.3	464	2,000	1,037	1,395	0	0.33	1
白糖	全	3,15	145.0	45.0	7.0	635	全	1,228	1,575	損	0.26	3
赤糖	全	3,26	146.0	22.0	8.4	620	全	1,067	1,554	損	1.00	2

四、結論

以上四ケ年ノ試験成績ニヨリ之レヲ案スルニ歩留ニ於テハ黒糖、白糖ノ順位ナルモ純益ニ於テハ黒糖、赤糖、白糖ノ順位トナス
 要之「讀谷山ノ如キ内國種ヲ以テ製造スル場合ハ黒糖、赤糖、白糖ノ順位ナレドモ大体大差ナカルベシ」
 参考ノ爲メ煎煮時間製糖量歩留ノ平均成績ヲ示セバ左ノ如シ

種糖類	蔗莖量	煎煮時間	製糖量	歩留
黒糖	500.0	2,31	49.1	9.8
赤糖	全	3,51	43.5	8.7
白糖	全	3,35	48.5	9.7

第五、甘蔗苗圃

當場ハ本島、徳之島、喜界島、沖永良部島、與論島ノ各地方ニ苗圃ヲ設置シテ讀谷山種ヲ栽培シ苗ヲ育成シテ當業者ニ無償配布ヲ行ヒ併セテ栽培法ノ模範ヲ示セリ

一、苗圃設置規程

鹿兒島縣立糖業試驗場甘蔗苗圃設置規程 (大正元年九月七日認可) (大正六年二月十六日改正)

- 第一條 大島郡内ニ甘蔗讀谷山種ノ普及ヲ計ル爲メ苗圃ヲ設置ス
 - 第二條 苗圃ニ於テ讀谷山種ヲ養成シ之レヲ管内ニ無償配布シ且ツ栽培ノ模範ヲ示スモノトス
 - 第三條 糖業試驗場ハ本規程ニ依リ大島郡内左記ノ各島ニ適宜苗圃ヲ設置ス
大島本島、喜界島、徳ノ島、沖永良部島、與論島
 - 第四條 苗圃管理ノ爲メ助手ヲ置ク
 - 第五條 助手ハ糖業試驗場長ノ任命ニ從ヒ苗圃ニ關スル事務ニ從事スルモノトス
 - 第六條 苗圃ニ關スル事務ハ場長別ニ之レヲ定ム
- 二、苗圃設置箇所
 現今ニ至ル迄設置セル苗圃左ノ如シ

名稱	設置箇所	反別	設置期	廢止期	備考
名瀬苗圃	第一期 大島郡名瀬村大字伊津部	五反歩	大正元年度		現設
東方苗圃	全 全郡東方村大字古仁屋	三反歩	大正六年度		現設
笠利苗圃	全 全郡笠利村大字里	三反歩	全		現設

喜界苗圃	第一期	全郡喜界村大字赤連	五反歩	大正元年度	大正四年度	大正四年度	現	！
島尻苗圃	第二期	全郡全村大字灣	五反歩	大正四年度	大正六年度	大正六年度	現	！
天城苗圃	第一期	全郡島尻村大字伊仙	五反歩	大正元年度	大正六年度	大正六年度	現	！
和泊苗圃	全	全郡天城村大字阿布木名	四反歩	大正六年度	大正六年度	大正六年度	！	！
與論苗圃	第一期	全郡和泊村大字皆川	五反歩	大正元年度	大正元年度	大正元年度	！	！
	第二期	全郡與論村大字足戸	五反歩	大正元年度	大正四年度	大正四年度	！	！
		全郡全村大字茶花	五反歩	大正四年度	大正四年度	大正四年度	！	！

備考 現設六苗圃合計貳町五反歩也

第六、蔗苗ノ配布

前章ノ如ク各苗圃ニテ養成セル蔗苗ヲ當業者ニ無償配布ヲ行フ

一、蔗苗配布規程

鹿兒島縣立糖業試驗場甘蔗種苗配布規程 (大正元年九月九日) 縣令第七號

- 第一條 甘蔗種苗ノ配付ハ改良種ノ普及ヲ計ルヲ以テ目的トシテ無償ニテ交付ス
- 第二條 甘蔗種苗ノ配布ヲ爲サントスル時ハ糖業試驗場長ハ豫メ種類、數量及出願期限ヲ公告スベシ
- 第三條 甘蔗種苗ノ配付ヲ受ケムトスル者ハ出願期限内ニ種類、數量ヲ記シタル願書ヲ所轄村長ヲ經由シ糖業試驗場長ニ差出スヘシ
- 第四條 糖業試驗場長配付ノ許可ヲナシタルキハ該種苗ノ引渡期限ヲ指定スベシ
- 第五條 甘蔗種苗配付ノ許可ヲ得タルモノ該種苗ノ引渡ヲ請フキハ許可證ヲ呈示スヘシ
- 第六條 甘蔗種苗引渡期限内ニ引渡ヲ請求セザルトキハ配付ノ許可ハ其効力ヲ失フ
- 第七條 許可證交付ノ後配付ノ目的タル種苗力減失シ又ハ枯損アリタルキハ許可ヲ受ケタル者ハ糖業試驗場長ノ通

村別	四十一年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度	元年度	二年度	三年度	四年度	五年度	合計
大名	六、八〇〇	八、八〇〇	六、八〇〇	一六、八〇〇	！	二二、〇〇〇	二九、七五〇	九、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇一、九五〇
宇和	二、二〇〇	三、二〇〇	六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	！	一一、五〇〇	四、五〇〇	一〇、〇〇〇	！	四四、三〇〇
西檢	四、四〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	！	一〇、〇〇〇	五、五〇〇	四、五〇〇	五、五〇〇	四三、七〇〇
鎮西	！	！	！	！	！	二、五〇〇	！	五、五〇〇	二、五〇〇	一〇、〇〇〇
實久	一、八〇〇	八、〇〇〇	！	一八、〇〇〇	！	一三、〇〇〇	七、〇〇〇	一三、〇〇〇	三、五〇〇	六七、五〇〇
東方	！	！	！	！	！	！	！	！	！	！
住方	四、八〇〇	四、八〇〇	四、一〇〇	六、八〇〇	！	二二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇	六六、〇〇〇
龍郷	三、〇〇〇	四、八〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	！	一三、〇〇〇	！	一〇、〇〇〇	！	四二、〇〇〇
笠利	六、五〇〇	七、二〇〇	五、〇〇〇	一三、〇〇〇	！	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	三、五〇〇	五九、〇〇〇
喜界	！	三、二〇〇	四、六〇〇	一、〇〇〇	！	二九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	七八、三〇〇
總津	六、五〇〇	八、〇〇〇	七、四〇〇	一五、〇〇〇	！	三三、〇〇〇	一五、〇〇〇	！	八、〇〇〇	九二、九〇〇

明治四十一年度以降ノ配布成績ヲ表示スレバ左ノ如シ

二、蔗苗配布成績

本令ハ大島郡ニ限り之レヲ適用ス

附則

- 知ニヨリ該許可證ヲ返納スヘシ
- 第八條 甘蔗種苗配付ノ出願豫定數ニ超過スル場合ハ糖業試驗場長ハ適宜分配ノ數量ヲ査定ス
- 第九條 糖業試驗場長ハ必要ト認ムル場合ハ種苗ノ配付ヲ許可シタル者ニ對シ特ニ耕種ノ方法ヲ指定シ若シクハ定式ニ依リ作況ヲ報告セシムルコトアルヘシ

天城	東城	島尻	和泊	知名	與論	十島	計
一四、三〇〇	一五、一〇〇	一五、一〇〇	一五、一〇〇	一五、一〇〇	一五、一〇〇	一五、一〇〇	一四、三〇〇
一、二、八〇〇	一、二、八〇〇	一、二、八〇〇	一、二、八〇〇	一、二、八〇〇	一、二、八〇〇	一、二、八〇〇	一、二、八〇〇
八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇	八、四〇〇
一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇
二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇	二、四〇〇
五、六、二〇〇	五、六、二〇〇	五、六、二〇〇	五、六、二〇〇	五、六、二〇〇	五、六、二〇〇	五、六、二〇〇	五、六、二〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、七、四六、三二六	一、七、四六、三二六	一、七、四六、三二六	一、七、四六、三二六	一、七、四六、三二六	一、七、四六、三二六	一、七、四六、三二六	一、七、四六、三二六

第七、糖業傳習生ノ養成

斯業ノ改良發達ヲ計ル爲メ之レニ關スル學術及實地ノ大要ヲ習得セシムル目的ヲ以テ傳習生ヲ養成スルモノニシテ
 四十年ヨリ事務局ニ於テ行ヒ四十五年ヨリ糖業試驗場ニ於テ引續キ行フ

一、鹿兒島縣立糖業試驗場糖業傳習生養成規程 (大正元年九月七日認可)
 (大正六年六月二十二日改正)

第一條 糖業試驗場ニ於テ糖業ノ改良發達ヲ圖ル爲メ之レニ關スル學術及實地ノ大要ヲ習得セシムル目的ヲ以テ傳
 習生ヲ養成ス

第二條 糖業傳習生ヲ左ノ二種ニ分チ甲種ヲ長期トシ乙種ヲ短期トス

- 一、甲種
- 一、乙種

第三條 糖業傳習生ニ關スル講習ハ糖業試驗場職員之レヲ擔當ス

- 一、農學大意
- 二、甘蔗栽培論

三、製糖論

四、甘蔗栽培及製糖ノ實習

第五條 傳習生ノ募集人員講習期間及其開期ハ毎年度糖業試驗場長之レヲ定ム

第六條 傳習生ハ所轄村長ノ推薦ニ依リ左ノ資格アルモノヨリ募集ス

一、甲種傳習生ハ甲乙種農學校卒業生又ハ糖業傳習修得者若クハ之レト同等以上ノ學力アリト認メラル、モ、

二、乙種傳習生ハ高等小學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之レト同等以上ノ學力アリト認メラル、モ、

三、年齢滿拾八歳以上ニシテ品行方正身體強健ナルモノ

四、大島郡ノ住民ニシテ相當ノ耕地ヲ所有スルモノ若クハ其子弟ニシテ將來糖業ニ從事スルモノ

第七條 傳習生志願ノモノハ別紙書式ニ依リ願書ニ履歷書及村長ノ推薦狀ヲ添ヘ講習開始拾日前迄ニ糖業試驗場ニ
 差出スベシ

但シ志願ノ數定員ニ超過スルキハ入場ノ許否ハ糖業試驗場長之レヲ決ス

第八條 身元保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ營ムモノニ限ル

第九條 傳習生ハ場内ニ寄宿セシム但シ時宜ニヨリ通學ヲ許スコトアルベシ

第十條 傳習生ニハ一日一人甲種乙種トモ金拾五錢ノ手當ヲ支給ス

但シ食費被服文具等ハ一切之レヲ自辨トス

第十一條 傳習生左ノ各項ノ一ニ該當スルキハ何時ト雖モ退場ヲ命ズルコトアルベシ

- 一、品行不良
- 二、成績不良ニシテ修得ノ見込ナキモノ

三、疾病其他ノ事故ニヨリ修得スルコト能ハザルモノ
 第十二條 傳習生中途退場ヲ命セラレ又ハ自己ノ都合ニヨリ退場シタルキハ既給手當ハ即日之レヲ辨償セシム
 但シ疾病其他糖業試驗場長ニ於テ至當ト認ムル理由ニヨリ退場シタルキハ辨償ヲ免スルコトアルベシ
 第十三條 講習了シタルキハ傳習生修得證書ヲ授與ス
 第十四條 傳習生ハ修得後糖業ニ從事シ以テ斯業ノ改良發達ニ資スルハ勿論糖業試驗場ノ命ニ依リ其ノ地方ノ糖業
 ニ關スル事項ニ就キ報告スルノ義務アルモノトス

傳習生志願書

某 儀

今般貴場○種傳習生志願致候ニ付御許可相成度別紙履歷書及村長ノ推薦狀相添へ保證人連署此段御願申
 上候也

年 月 日

住所族籍戸主又ハ何某何男

姓 名 〇

生 年 月 日

右何某貴場傳習生トシテ御採用御許可相成候上ハ御規則等一切遵奉爲致可申ハ勿論同人身上ニ關スル一
 切ノ事ハ拙者共ニ於テ引受可申此段保證候也

年 月 日

住所族籍

保證人

何 某 〇

全 上

保證人

何 某 〇

鹿兒島縣立糖業試驗場長宛

(備考) 本人姓名ニハ振リ假名ヲ附スベシ
 保證人中壹名ハ名瀬在住者タルヘシ

履 歷 書

- 一、年月日何學校卒業
 - 一、年月日何學校卒業
 - 一、年月日ヨリ年月日迄何ヶ年(又ハ何ヶ月)間何學校(又ハ何業)修業又ハ研究
 - 一、年月日ヨリ年月日迄何ヶ年(又ハ何ヶ月)間何職從事
 - 一、賞 罰
- 右之通り相違無之候也
- 年 月 日
- 何 某 〇

推 薦 狀

住所族籍戸主又ハ何某何男

姓 名

生 年 月 日

右者貴場傳習生養成規程第六條ノ資格ヲ有スルモノタルコトヲ認定候條此段推薦候也

年 月 日

鹿兒島縣大島郡

何村々々長 姓

名 〇

鹿兒島縣立糖業試驗場長宛

二、傳習生養成成績
明治四十年以降ノ修得者ヲ示セバ左ノ如シ

村別	四十年	四十年十	四十年十二	四十年十三	四十年十四	四十年十五	四十年十六	四十年十七	四十年十八	四十年十九	四十年二十	計
大名												
瀬和												
字方												
西方												
鎮西												
實方												
東用												
住郷												
龍利												
笠津												
喜泉												
東城												
天城												
島尻												
和泊												
知名												
與論												
計	六	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

(備考) 大正五年ハ傳習生三十名入場セシモ一名病氣中途退場

第八、地方短期講習

地方短期講習規程(大正六年三月二日認可)

第一條 糖業ノ改良發達ヲ計ル爲メ地方ニ於テ短期講習ヲ行フ

第二條 講習科目及期間左ノ如シ

一、甘蔗栽培法(實習共)四日間

二、製糖及築窠實習 三日間

三、肥料及土壤 三日間

第三條 講習ノ場所及開期ハ其ノ都度糖業試驗場長之レヲ定ム

第四條 講習ヲ修了セルモノニハ修得證書ヲ授與ス

從來地方ニ出張シテ講習ヲ行ヒ來リシガ大正六年三月ヨリ右ノ規程ニ依リテ施行スル事トナレリ

今其ノ成績ヲ一括シテ舉グレバ左ノ如シ

年度別	期日	箇所	講習科目	修得人員	備考
大正四年度	大正五年三月	住方村	製糖實習	二〇人	
全上	全上	東方村	全上	二〇	
全上	全上	燒内村	全上	二〇	
大正五年度	大正五年四月	知名村	全上	四五	
全上	全上	知名村	全上	三〇	
全上	全上	字上城	全上	三〇	
全上	全上	字田皆	全上	五〇	

年	次	修	得	人	員
大正元年度ヨリ毎年製糖期ニ於テ一週間乃至十日間全都ノ農業技手ヲ試験場ニ召集シ糖業ノ講習ヲ行ヘリ其ノ成績左ノ如シ	全	上	全	全	三〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	二〇
	全	上	全	全	三五
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	三五
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇
	全	上	全	全	四〇

第九、農業技手ノ講習

之レヨリ以後ハ地方短期講習規程ニ依ル

大正元年度	二年度	三年度	四年度	五年度	六年度	合計
一三人	二八	一二	一四	一三	一八	九八

第十、印刷物配布

一、糖業改良事務局報告	第一號	(明治四十二年)
二、全上	第二號	(明治四十三年)
三、全上	第三號	(明治四十四年)
四、全上	第四號	(明治四十五年)
五、鹿兒島縣立糖業試驗場要覽		(明治四十五年)
六、糖業試驗場報告	第一號	(大正二年)
七、全上	第二號	(大正三年)
八、全上	第三號	(大正四年)
九、全上	第四號	(大正五年)
十、全上	第五號	(大正六年)
十一、山藍ニ就イテ		(大正五年)

- 十二、甘蔗作ノ心得 (大正五年)
- 十三、製糖ノ榮 (大正五年)
- 十四、肥料ノ榮 (大正六年)
- 十五、通俗肥料鑑定法 (大正六年)
- 十六、改正鹿兒島縣立糖業試驗場要覽 (大正六年)
- 十七、糖業教本 第一卷 甘蔗栽培法 (大正六年)
- 十八、全 上 第二卷 砂糖製造法 (大正六年)
- 十九、全 上 第三卷 土壤及肥料 (大正六年)
- 二十、全 上 第四卷 病害蟲 (大正六年)
- 二十一、試驗場彙報 第一 讀谷山蔗 (大正六年)
- 二十二、糖業傳習生名簿 (大正六年)
- 二十三、試驗場彙報 第二、大島產花百合概說 (大正七年)

第十一、試驗場職員

官	職	名	分擔事務	氏名
鹿兒島縣立糖業試驗場技師		鳥原重夫	場長	鳥原重夫
鹿兒島縣立糖業試驗場技師		村元淺春	栽培	村元淺春
鹿兒島縣立糖業試驗場技師		堤澤明治	化學分析兼製糖掛	堤澤明治
鹿兒島縣立糖業試驗場技師		岩切明治	製糖兼栽培掛	岩切明治

書	助	全	全	全	全	全	全	常	全	小	全
記	手	上	上	上	上	上	上	上	上	使	上
庶務會計掛	庶務會計掛	分擔	栽培	苗圃	全	全	全	全	全	農	全
上馬誠一	宮山正弘	岡村嘉彦	篠村嘉彦	桂原嘉彦	源嘉彦	皆川嘉彦	興熊嘉彦	東熊嘉彦	花田嘉彦	宗	好

大正七年三月二十日印刷
大正七年三月卅一日發行

鹿兒島縣立糖業試驗場

鹿兒島市金生町二十六番戶

印刷人 佐々木伊四郎

鹿兒島市金生町二十六番戶

印刷所 佐々木龍勢堂

14.2₁

352₀

終